

資料

井上哲次郎『巽軒日記―明治四三年―』

村上 こそづえ

谷本 宗生

翻刻にあたって

前稿において、明治期から昭和戦前期にかけて哲学者として活躍した井上哲次郎（一八五五―一九四四年）の日記『巽軒日記』の一部（明治二六―二九、四〇、四一年）および明治四二年分を紹介した。そこで本稿では同じく『巽軒日記』明治四三年分について引き続き紹介したい。なお、凡例については第31号で述べていることから割愛する。なお、本稿の翻刻作業にあたっては、館員の村上こそづえが担当従事し、元館員であった谷本宗生が指揮確認を行っている。

巽軒日記

明治四十三年（西暦一九一〇） 上半期

一月

一日、午前、宮中拝賀、牧野伸顕、乃木希典、辻新次、肝付兼行、

石黒忠憲、清浦奎吾等と会見す、○赤坂御所に拝賀に赴く、○不在中、浦谷熊吉来賀す、○井上成美来賀す、○午后、齋藤基次郎来賀す、○富山房より「東亜の光」（五の一）拾部を送来る、○夜、少しく風邪の気味あり、○此日、マニユファクチュラス生命保険会社の支配人 William Harris より来状、○来賀者二百拾壹名、賀状葉書参百八拾七、封書九拾式、合計四百七拾九、之を来賀者数と合算すれば、五百九拾、○東亜協会前年一月の特別会員数参百八拾五名、本年一月は五百五拾六名、増員二百七拾壹名、○「東亜の光」前年一月の発行部数貳千、本年一月は参千参百、

二日、午前、姉崎正治、葛岡敬雄来賀す、○Walter Dening, Confucian Philosophy in Japan を読む、○午后、堀田相爾来賀す、○夜、休養、○此日、来賀者、八拾六名、賀状亦甚だ多し、賀状の合計は、後日之を挙ぐべし、

三日、午前、浦谷熊吉来談す、○午后、杉中種吉来訪す、○年始に

赴く、○夜、雑誌類を読む、○此日、「道德と文芸」教育界に出づ、○来賀者二十六名、○井上健児より鶏卵素麵を送来る、○清子、風邪に罹る、

四日、午前、談話筆記、国民新聞に出づ、○Ernst Haeckel, Die Welträhsselを読む、○午后、望月信亨、小野玄妙、浦谷熊吉及び植田弥吉夫婦来訪す、○佐々木信綱より「定家歌集」を送来る、○齋藤儀八より来状、○広井辰太郎、東亜協会々員となる、○夜、Die Welträhsselを読む、○此日、来賀者六名、

五日、午前、新年宴会に宮中に赴く、○午后、東京名所の画葉書各五十枚入の箱を井上末子、富田順吉、弥吉為三郎に送る、○Ernst Haeckel, Die Welträhsselを読む、○夜、引続きDie Welträhsselを読む、○新井白石の古史通を読む、

六日、午前、「東亜の光」(五の一)を九鬼隆一、徳富猪一郎、小松原英太郎に送る、○書状を九鬼隆一に送る、○樋口秀雄妻、菓巻籠を携へて来訪す、○亀井茲常来賀す、○午后、手塚光貴、古川黄一來賀す、○夜、鼻加答児の為に静養す、○此日、書状を三宅康寧及びユニテリアン協会に送る、

七日、午前、富田春山より来状、○書状を小松原英太郎及び徳富猪一郎に送る、○幸田成友より「大塩平八郎」を送来る、○午后、富田春山より館、米林建造より菓子を送来る、○萩野由之、丹頂鶴の肉を携へて来訪す、○黒澤良臣より来状、○吉田雪子来る、○Ernst Haeckel, Die Welträhsselを読む、○夜、書状を萩野由之及び伊藤伊之助等に送る、○富田政喜及びマヌファクチュラー

ス生命保険会社より来状、○古史通を読む、

八日、午前、マヌファクチュラーズ生命保険会社より保険券を送来る、○帝国教育会より「吉田松陰」を送来る、○三並良より来状、○巢鴨宮内に運動に赴く、○午后、弘道館より校正来る、○校正を弘道館に送る、○文部省より「教育勅語訳纂」を送来る、○坂本嘉治馬、原平吉、江藤邦松、姉崎袖子、林勃爾来訪す、○夜、古史通を読む、

九日、午前、龍山義亮、得能文、島本愛之助、角田松壽来訪す、○午后、英爾をユニテリアン協会に遣はす、○秋山悟庵来訪す、○Haeckel, Die Welträhssel及び古史通を読む、○上岸光宣及び建部遯吾より絵葉書来る、○夜、古史通を読む、

十日、午前、弘道館、小石川郵便局及び尾崎熊太郎より来状、○徳富猪一郎、東亜協会賛助員となる、○帝国大学より「大日本史料」(第四の九)を受取る、○講義に大学に赴く、○午后、古川元彦、林政穂、伊東珍平来訪す、○中西長次郎より来状、○校正を弘道館に送る、○森良三郎来談す、○夜、妻子を拉して多賀羅亭に赴く、○Haeckel, Die Welträhsselを読む、○此日、鼻加答児軽快、

十一日、午前、岡野義三郎、国民新聞社及び林正徳より来状、○日本青年社より御礼を送来る、○Haeckel, Die Welträhsselを読む、○浦谷熊吉来談す、○玉利涉、堀竹雄、菅原順、森英吉、外巻名、東亜協会々員となる、○午后、縫子、年始に赴く、○岡野義三郎より「倫理学輯要」を送来る、○Haeckel, Die Welträhsselを読む、○同文館より校正来る、○雪、○夜、校正を同文館に送る、

十二日、午前、学習院に赴く、○午后、哲学字彙の会に大学に赴く、○武藤七郎、東亜協会々員となる、○吉田雪子来る、○夜、Haeckel, Die Welträhssel を読む

十三日、午前、Haeckel, Die Welträhssel を読む、○黒川真道書状を送る、○午后、講義に大学に赴く、○古史通を読む、○「漢学復興と教育」、教育学術界に出づ、○Gramatzky より絵葉書来る、○井上スエより来状、○古史通を読む、○内務省地方局より来状、

十四日、午前、浦谷熊吉来談す、○帝国教育会より来状、○古史通及び新撰姓氏録を読む、○「国民道徳と倫理学」丁酉倫理に出づ、○東新、東亜協会々員となる、○午后、深作安文、教育勅語の原稿を携来る、○姓氏録及び Haeckel, Die Welträhssel を読む、○葉書を武光信雄及び鳩澤総明に送る、○夜、浦谷熊吉、堀田相爾来談す、○Haeckel, Die Welträhssel を読む

十五日、午前、姓氏録及び Haeckel, Die Welträhssel を読む、○森良三郎来る、○在米国内田融、在独国長江藤次郎、在布哇時枝誠之より年始状来る、○雪、○在巴里山崎直三より Je sais tout No.1 を送来る、○午后、維新志士遺墨展覧会に上野に赴く、○古史通を読む、○校正を同文館に送る、○夜、在柏林朝永三十郎より絵葉書来る、○教科書会より来状、○古史通及び Tiele, Elements of the Science of Religion を読む

十六日、午前、雪、○在北京の塩谷温より絵葉書来る、○千葉亀雄、高木武、葉山万次郎、秋山悟庵来訪す、○午后、古史通を読む、

○藤田季莊来訪す、○夜、瀧精一より名画の写真七枚と書状とを送る、○古史通を読了る、○Tiele, Elements of the Science of Religion を読む

十七日、午前、講義に大学に赴く、○「日本神話の新解釈」哲学雑誌に出づ、○午后、浦谷熊吉来談す、○黒川真道の使者来る、乃ち談話を筆記せしむ、○奥田米翁来る、有故不逢、○Tiele, Elements of the Science of Religion を読む、○文科大学より来状、○夜、引続々 Tiele を読む、○Haeckel, Die Welträhssel を読む、○此日、金港堂より建部遯吾の「社会静学」を送来る、

十八日、午前、Haeckel, Die Welträhssel を読む、○笹川種郎来訪す、○同文館より校正来る、○午后、井上波野、元良婦人来訪す、○校正を二回同文館に送る、○文科大学及び帝国学士院より来状、○縫子、間端吾宅に赴く、○深作安文の原稿を訂正す、○吉田豊吉より来状、○孔子家語を読む、○夜、同文館より来状、○在独国上田整次より年始状来る、○深作安文の原稿を訂正す、

十九日、午前、学習院に赴く、○午后、鷲尾順敬を史料編纂所に訪ひ、尋いで教授会に山上御殿に赴く、○真川吉之助、大学に来訪す、○足立四郎吉より来状、○不在中黒川真道来訪す、○姉崎益子来訪す、○石川岩吉より「日本倫理史要」を送来る、○夜、新聞雑誌類を読む、○此日、「師範修身」七百部及び「農業修身」三百部の奥附を金港堂に付与す、○井上貞子より来状、

二十日、午前、Wundt, System der Philosophie 及び Huxley, On the Physical Basis of Life を読む、○芝辻正晴、相原熊太郎来訪す、

○吉田豊より来状、○午后、講義に大学に赴く、○浦谷熊吉来談す、○新撰姓氏録を読む、○夜、千葉亀雄、吉田雪子来談す、○中島力造より絵葉書来る、○赤穂義士史料を読む、○此日、琉球人東恩納寛惇、東亜協会々員となる、

廿一日、午前、櫻井ちか子、日之出生命保険会社より来状、○Huxley, *On the Physical Basis of Life* 及び Tiele, *Elements of the Science of Religion* を読む、○午后、黒川真道、小島政吉来訪す、○書状を足立四郎吉及び櫻井義肇に、葉書を隈本有尚及び樋口秀雄に送る、○源良顕の「元服齒黒考」を読む、○深作安文の原稿を訂正す、○Tiele, *Elements of the Science of Religion* を読む、○夜、帝国学士院、鈴木愛邦より来状、○深作安文の原稿を訂正す、

廿二日、午前、悟道弁を読む、○金子三四郎より「相互」を送来る、○午后、樋口勘次郎、吉田虎之助、東亜協会々員となる、○悟道弁を読む、○櫻井義肇より書状及び速記を送来る、○浦谷熊吉来談す、○植村道次郎来る、乃ち同道して小川小学校に赴き、「神道と教育」を演述す、○戊申同窓会に招待せられて多賀羅亭に会食す、○小島政吉、金子三四郎より来状、○夜、教科書会より書類来る、○新聞雑誌類を読む、

廿三日、午前、桑田芳蔵、高木武、豊島要三郎、羽山好作、岩橋遵成、有馬祐政、森良三郎、鈴木貞太郎来訪す、○午后、浦谷熊吉、長谷川小四郎来訪す、○教育勅語に関する原稿を齋藤精輔に送る、○ロイド氏演説速記の訂正を浦谷熊吉に送る、○清水彦五郎来賀

す、○夜、「西洋料理教科書」の序を草す、○「女子修身」八百部の奥附を金港堂に付与す、

廿四日、午前、講義に大学に赴く、○午后、在天津の逢恩承より年始来る、○望月信亨より来状、○教科書会に赴く、○「西洋料理教科書」の序を櫻井ちか子に送る、○堀田相爾来訪す、○大日本史料を読む、○所得税、地租等合計四拾七円八拾壹錢を区役所に納む、○夜、林政穂、植村道次郎御礼の爲めに来る、○日本人の義士研究講演会に赴き、「赤穂義士に就いて」講演す、○吉田夫婦来談す、○此日、星野小次郎より来状、

廿五日、午前、Haeckel, *Die Lebenswunder* を読む、○浦谷熊吉来談す、○午后、帝国学士院委員会に山上御殿に赴く、○川村北溟より菓子箱を送来る、○小瀧淳来訪す、○Haeckel, *Die Lebenswunder* を読む、○植田弥吉より来状、○R. Lange より年始来る、○夜、堀田相爾来訪す、○櫻井ちか子、東亜協会々員となる、○櫻井ちか子及び高橋龍雄より来状、

廿六日、午前、雪、○学習院に赴く、○午后、哲学字彙の会に大学に赴く、○Haeckel, *Die Lebenswunder* を読む、○夜、Haeckel, *Die Lebenswunder* を読む、

廿七日、午前、Haeckel, *Die Lebenswunder* 及び Bain (')s *The Emotions and the Will* を読む、○浦谷熊吉来談す、○龍山義亮より来状、○菅瀬芳英、東亜協会々員となる、○午后、講義に大学に赴く、○藤懸静也、大学に来訪す、○教科書会より書状及び書類来る、○齋田耕陽より来状、○「山鹿素行先生」成る、○夜、

富山房より「漢文大系」第一冊を送来る、○此日、中村秋香逝く、享年七十

廿八日、午前、「教界春秋」を草す、○小杉熙より書状及び蟹を送来る、○午后、「教界春秋」を浦谷熊吉に送る、○教科書会に文部省に赴く、○不在中黒住宗武来訪す、○齋田耕陽より唐紙を送来る、○夜、日本紀及び悟道弁を読む、○此日、黒沢良臣より来状、廿九日、午前、浦和に赴く、○午后、浦和師範学校に於て「神道と教育」を演説す、小島政吉、中村不折等と会見す、○夜、哲学会に山上御殿に赴く、○不在中浦谷熊吉等来訪す、○飯村虎雄、諏訪熊雄、小谷重及び同文館等より来状、○此日、三好晋六郎逝く、享年五十四、○「中学修身」一千六部及び「農業修身」三百部の奥附を金港堂に付与す、

三十日、午前、竹本喜平、田中義能、星野小次郎、岩橋遵成、森良三郎来訪す、○午后、小島政吉、信楽随縁、木場了本来訪す、○書状を小杉熙、鈴木愛邦に、葉書を浦谷熊吉、黒澤良臣に送る、○高子軽快、○三好博士逝去の通知書来る、○夜、大日本史料を読む、

卅一日、午前、講義に大学に赴く、○内田貢、東亜協会々員となる、○午后、同文館印刷物の校正をなす、○哲学会の速記を訂正す、○同文館の使者来る、○夜、浦永茂助来訪す、○哲学会の速記を訂正す、

二月

一日、午前、土子金四郎より来状、○速記を訂正す、○浦谷熊吉来

訪す、○槇山栄次、東亜協会々員となる、○午后、英爾を東海銀行に遣はす、○三好晋六郎の葬式に谷中齋場に赴く、永井久一郎と会見す、○大島正徳来訪す、○速記を訂正す、○夜、富田順吉内より来状、○速記を訂正し了りて之を大島正徳に送る、

二日、午前、学習院に赴く、○午后、教授会に山上御殿に赴く、○哲学字彙の会に莅む、○多田房之輔、東亜協会々員となる、○川村北溟の使者来る、○夜、「女子修身」三千部の奥附を金港堂に付与す、○Haeckel, Die Lebenswunder を読む、

三日、午前、Haeckel, Die Lebenswunder 及び Wundt, System der Philosophie を読む、○午后、講義に大学に赴く、○不在中前川又三郎来訪す、○黒澤良臣、川村北溟より来状、千葉亀雄、政教社の御礼を携来る、○夜、同文館の校正を訂正す、○此日、藤岡作太郎逝く、享年四十一、

四日、午前、同文館の校正を訂正す、○川村北溟著書の題字を書す、○「東亜の光」(五の二)成る、○浦谷熊吉来訪す、○成美夫妻を招待す、○午后、中働入代る、○国語調査会に赴く、帰途高楠順次郎と共に藤岡作太郎を弔す、○不在中葛岡敬雄の使者来る、○吉田雪子来談す、○「女子修身」三千部の奥附を金港堂に付与す、○英爾を川村北溟宅に遣はす、○夜、校正を同文館に送る、○授業報告を学習院女子部に送る、○書状を龍山義亮に、葉書を豊島要三郎に送る、○此日、西澤富則、後藤澄心、中村倫之助、多田房之輔、黒川真道、野間清治、東亜協会々員となる、

五日、午前、浦谷熊吉来訪す、○古事記及び悟道弁を読む、○午

后、帝国学士院、日之出生命保険会社、韋庵会、岩原松五郎、三浦美佐雄より来状、○安達峯一郎より絵葉書来る、○悟道弁及び Haeckel, Die Lebenswunder を読む、○齋藤儀八より小包を送来る、○長谷川小次郎、深作安文来訪す、○夜、「東亜の光」を桑原隲藏、新村出、鳥居忱に送る、○Haeckel, Die Lebenswunder を読む、○豊島要三郎より来状、

六日、午前、高木武をして藤岡作太郎の葬式に会せしむ、○宮本小一、土子金四郎の紹介状を携来る、○岩橋遵成、森良三郎、林政穂来訪す、○Haeckel, Die Lebenswunder を読む、○午后、早川純三郎、小林義則、村上雪来訪す、○岡山先生書簡を読む、○運動に神田に赴き、書籍を購求す、○夜、大日本史料を読む、
七日、午前、講義に大学に赴く、○井上すゑより小包を送来る、○午后、Ernst Haeckel, Die Lebenswunder 及び Die Weirähnel を読む、○三並良来訪す、○夜、三省堂の原稿を訂正す、

八日、午前、原田記念会より記念帖を送来る、○三省堂の原稿を訂正す、○吉田宅に赴く、○午后、木村泰賢、大庭景秋、浦谷熊吉、堀田相爾来訪す、○原稿を訂正す、○生田目経徳、栄田猛猪、富山亀次郎、谷多気麿、東亜協会々員となる、○在カルカタ市平田知夫より賀状来る、○夜、大日本史料を読む、

九日、午前、原稿を三省堂の宮崎彦磨に付与す、○学習院に赴く、○午后、山上御殿に赴き、尋いで哲学字彙の会に莅む、○英爾を日之出生命保険会社に遣はす、○芝中学校及び海国日報社より来状、○在米国蠣瀬彦蔵より絵葉書来る、○夜、Haeckel, Die

Lebenswunder を読む、○若木貞一、阿藤恵風より来状、○在倫敦中村和之雄より絵葉書来る、

十日、午前、Haeckel, Die Lebenswunder 及び Spencer's Principles of Biology を読む、○林政穂、木村安治及び文科大学より来状、○「女子修身」四千五百部の奥附を金港堂に付与す、○午后、講義に大学に赴く、○大学一覽を文科大学より受取る、○堀田相爾来訪す、○Haeckel, Die Lebenswunder を読む、○夜、Haeckel, Die Weirähnel を読む、○原稿を齋藤精輔に送る、○教科書会より書類来る、

十一日、午前、紀元節の御宴に宮中に赴く、○精神病科談話会より来状、○不在中鷲尾順敬来訪す、○午后、浦谷熊吉来訪す、○Höfding, Sören Kierkegaard を読む、○北島竹之助、川村北溟、東亜協会々員となる、○夜、Höfding, Sören Kierkegaard を読む、○堀田相爾来訪す、

十二日、午前、Höfding, Sören Kierkegaard を読む、○研究、○午后、「国民道德と倫理学説」丁酉倫理に出づ、○龍山義亮、原平吉、浦谷熊吉来訪す、○研究、○夜、帝国学士院に赴く、○鷲尾順敬より来状、○William James, The Varieties of Religious Experience を読む、

十三日、午前、宮崎虎之助、藤井健治郎、林政穂来訪す、○池田直、吉田豊の紹介状を携へ来る、○新楽金橋より「初等漢文典」及び「高等漢文典」を送来る、○齋田耕陽より来状、○午后、瀧精一来訪す、○夜、日本学会に山上御殿に赴く、乃木希典、山口銳之助等

来会す、非常の盛会なりき、○同文館より原稿来る、○此日、在
独逸宇野哲人より賀状来る、○此日、保々清音逝く、

十四日、午前、三並良より来状、○講義に大学に赴く、○午后、早
川純三郎、三省堂、竹村義忠及び W. E. Griffis より来状、○研究、
○夜、精神病〔科〕談話会に大学に赴き、「天才の精神情態」を
講述す、○文科大学及び市島謙吉より来状、

十五日、午前、千葉亀雄より来状、○浦谷熊吉来訪す、○同文館の
校正を訂正す、○校正を同文館に送る、○贈物を鳥居きみ子に送
る、○午后、「中学修身」五百部の奥附を文学社に付与す、○精
神病科談話会より来状、○Haeckel, Die Lebenswunder を読む、
○夜、書状を三土忠造、堀江秀雄及び三省堂に送る、

十六日、午前、学習院に赴く、○午后、教授会に大学に赴く、○哲
学字彙の会に莅む、○真信会より来状、○帝国教育会より書状及
び原稿を送る、○「中学修身」三千部の奥附を文学社に付与す、
○夜、Haeckel, Die Lebenswunder を読む、○縫子、成美宅に赴
く、○英爾を向ひに遣はす、○此日、不在中鳥居きみ子来訪す、
十七日、午前、Haeckel, Die Lebenswunder 及び James, Principles
of Psychology を読む、○池田直来訪す、○午后、講義に大学に
赴く、○英爾を大学に遣はす、○Tiele, Elements of the Science
of Religion を読む、○浦谷熊吉来訪す、○夜、Tiele, Elements
of the Science of Religion を読む、

十八日、午前、Tiele, Elements of the Science of Religion を読む、
○午后、国語調査会に文部省に赴く、○夜、神道研究会に赴く、

○不在中国民文庫刊行会より八代集(上)及び太平記を送来る、
○橋本雅邦追善展覽会及び教育教授研究会より招待状来る、○此
日、郵便局より大日本統藏経二帙を受取る、

十九日、午前、Tiele, Elements of the Science of Religion を読む、
○午后、書状を齋田耕陽、堀田相爾、齋藤儀八、安倍貞一に、葉
書を三並良、千葉亀雄、石橋五郎等に送る、○釈義堂、岩田信
作の書状を携へて来訪す、○Tiele, Elements of the Science of
Religion を読む、○原平吉、植村道次郎、林政穂来訪す、○夜、
心理学会に山上御殿に赴く、○不在中政教社より速記を送来る、

二十日、午前、遠藤隆吉、岩橋遵成、江部淳夫、早川純三郎、浦谷熊吉、
羽山好作、長谷川小次郎、水島耕一郎、高橋都素武、中島徳藏来
訪す、○午后、書状を林政穂及び植村道次郎に送る、○堀田相爾
来談す、○丁酉倫理会に赴く、○夜、ユニテリアン教会に赴き、「宗
教統一の基礎的觀念」に就いて講演をなす、○不在中藤懸静也及
び辻村鑑来訪す、○羽山好作、日本美術社等より来状、○此日、「日
本神話の新解釈」哲学雑誌に出づ、

廿一日、午前、講義に大学に赴く、○午后、文明協会より「比較文
学史」を送来る、○黒川真道、林政穂、植村道次郎、磯江潤来訪
す、○用辞と香典料とを保々清音宅に送る、○夜、吉田夫妻及び
堀田相爾来談す、○村川堅固、牧口常三郎、梅津隼人、東亜協会々
員となる、○文科大学より来状、

廿二日、午前、小林義則、森良三郎、浦谷熊吉来訪す、○森次太郎
来訪す、有、故不、遇、○教界春秋を草す、○午后、教界春秋を草

しりて之を口絵と共に日清印刷会社に送る、○岩橋遵成来談す、
○独逸より Zeitschrift für Pädagogische Psychologie を送来る、
○勝木奇熊より「真美会雑誌」を送来る、○夜、書状を吉田熊次
に送る、○Haeckel, Die Welträhsel を読む、○此日、高嶺秀夫
逝く、享年五十七、

廿三日、午前、学習院に赴く、○午后、哲学字彙の会に、大学に赴
く、○不在中内堀維文より来状、○高橋都素武より「現住人口統
計」を送来る、○夜、Haeckel, Die Welträhsel を読む、○教科
書会より来状、

廿四日、午前、Haeckel, Die Welträhsel を読む、○午后、講義に
大学に赴く、○齋田耕陽、吉田熊次及び櫻井錠一より来状、○
Tiele, Elements of the Science of Religion を読む、○夜、小谷重、
坂本嘉治馬来談す、○富山房より「プラトーン全集」を送来る、
○引続き Tiele を読む、○此日、「勅語教本」四百八拾式部の奥
附を晩成処に付与す、○此日、森良三郎来談す、○不在中大日本
仏教青年会員来訪す、

廿五日、午前、浦谷熊吉来談す、○Tiele, Elements of the Science
of Religion を読む、○午后、高嶺秀夫の葬式に麟祥院に會す、木
場貞長、国府寺新作、手嶋精一、田中正平等と邂逅す、○帝国学
士院及び浦谷熊吉より来状、○Tiele, Elements of the Science of
Religion を読む、○堀田相爾来談す、○夜、中島泰蔵来訪す、○
引続き Tiele を読む、○Haeckel, Die Welträhsel を読む、○教
科書会より書類来る、

廿六日、午前、英爾を浦谷宅に遣はす、○Haeckel, Die Welträhsel
を読む、○午后、書状を三宅米吉に、葉書を高橋都素武に送る、
○研究、○夜、哲学会に山上御殿に赴く、○大隈重信、井上頼国
より来状、

廿七日、午前、林政穂より来状、○大島正徳、尾上八郎、補永茂助、
乃木希典、森良三郎来訪す、○午后、黒川真頼の「穴居考」を読
む、○「中学修身」一千式百部の奥附を文学社に付与す、○伊藤
繁太郎来訪す、○「山子垂統」を読む、○英爾を井上頼国宅に遣
はし、鏡室集を返し、菓子箱を贈らしむ、○磯野七平より「たつ
くり」を送来る、○書状を東京毎日新聞社に、葉書を日比野寛に
送る、○夜、「山子垂統」を読む、○池田直より来状、

廿八日、午前、講義に大学に赴く、○午后、青木勘より来状、○政
教社の速記を訂正す、○夜、文科大学及び保々清音遺族より来状、
○政教社の速記を訂正す、○此日、ユニテリアン教会より御札を
送来る、

三月

一日、午前、Haeckel, Die Lebenswunder を読む、○森良三郎、浦
谷熊吉来談す、○保々清音遺族より菓子を送来る、○午后、
田中治六来訪す、○教科書会より書類来る、○引続き Die
Lebenswunder を読む、○夜、引続き Die Lebenswunder を読む、
○藤田季莊来訪す、
二日、午前、学習院に赴く、○午后、教授会に大学に赴く、尋い
で哲学字彙会に莅む、○国語調査会より書類来る、○長谷川福

平来訪す、○森治蔵、東亜協会々員となる、○夜、Haeckel, Die Lebenswunder 及び Die Welträthsel を読む、○此日、大倉書店より来状、

三日、午前、Wundt, Grundriss der Psychologie を読む、○文部省

より「国定教科書」数冊を送来る、○午后、講義に大学に赴く、○国語調査会より書類来る、○浦谷熊吉来談す、○夜、Tiele, Elements of the Science of Religion を読む、○此日、富山房より「東亜の光」(五の三)拾部を送来る、○不在中磯野七平来訪す、

四日、午前、坂本嘉治馬来訪す、○Tiele, Elements of the Science of Religion を読む、○瀧精一より「東洋美術図譜」二冊を送来る、○午后、国語調査会に文部省に赴く、○谷理蔵より「たづくり」沓袋を送来る、○文科大学より来状、○足立四郎吉より「赤穂義士評論」を送来る、○夜、興学会に山上御殿に赴く、○書状を青木勘に送る、○此日、不在中清水谷善照来訪す、

五日、午前、Tiele, Elements of the Science of Religion を読む、○「哲学雑誌」を坪井正五郎に送る、○午后、Tiele, Elements of the Science of Religion を読む、○Haeckel, Die Welträthsel を読む、○内田魯庵より「復活」二冊を送来る、○浦谷熊吉、原平吉、長谷川小次郎来訪す、○縫子、吉田宅に赴く、○藤田季荘、菲律賓人二名を拉して来談す、○帝国学士院及び大田黒作次郎より来状、○夜、Haeckel, Die Welträthsel を読む、

六日、午前、増島六一郎より来状、○松浦一、羽山好作、安田勝蔵、秋山悟庵、三澤糾、清水谷善照、藤本政介、奥田米翁来訪す、○

午后、外山博士記念会に赴く、林董、谷本富、永井久一郎、塩井正男等と会見す、○夜、宴会に山上御殿に赴く、○不在中松浦一より書状と菓壺籠を送来る、○勉強、○此日、三澤糾、東亜協会々員となる、

七日、午前、講義に大学に赴く、○八太徳三郎来訪す、○午后、橋本雅邦追善展覧会に上野に赴く、○藤井乙男より「諺語大辞典」を送来る、○浦谷熊吉、大島正徳来訪す、○書状を大島正徳に、菓書を松浦一に送る、○青木勘より来状、○Haeckel, Die Welträthsel を読む、○夜、引続き Haeckel, Die Welträthsel を読む、

八日、午前、Haeckel, Die Welträthsel を読了す、○稲葉包通、尾崎行雄の紹介にて来訪す、○遠藤国次郎、三上参次の紹介状を携来る、○James, The Principles of Psychology を読む、○午后、在伯林石橋智信より来状、○教科書会より書類来る、○夜、「講堂訓話」の序文を羽山好作に送る、○此日、国民新聞社より「維新志士記念絵葉書」を送来る、

九日、午前、啓成社より、「元禄快拳録」を送来る、○学習院に赴く、○午后、哲学字彙の会に大学に赴く、○三上参次を史料編纂所に訪ふ、○不在中長谷川福平、宮崎彦磨来訪す、○瀧口了信より使者来る、○「中学修身」二千部の奥附を金港堂に付与す、○藤澤衛彦、東亜協会々員となる、○夜、William James, The Principles of Psychology を読む、○此日、山崎甚一郎より来状、

十日、午前、渡部董之介より来状、○James, The Principles of

Psychology を読む、○大隈重信より「国民読本」を送来る、○金港堂より「中学修身備考」を送来る、○浦谷熊吉来る、○午后、講義に大学に赴く、○「中学修身」二千部の奥附を金港堂に付与す、○長谷川福平来談す、○実業之日本社より来状、○夜、James, The Principles of Psychology を読む、

十一日、午前、柏原省三より来状、○Franz Brentano, Psychologie vom empirischen Standpunkte を読む、○浦谷熊吉、森良三郎来談す、○小林義一郎、青木正、谷垣邦義、東亜協会々員となる、○午后、引続き Brentano を読む、○夜、宮崎彦磨、濱田善蔵来訪す、

十二日、午前、大雪、○藤懸静也、本野一郎より来状、○「心学史要」を読む、○午后、八太徳三郎来る、乃ち之をして談話を筆記せしむ、○「中学修身」一千部の奥附を金港堂に付与す、○速記を瀧口了信の使者に付与す、○在維也納建部遜吾より来状、○小松原英太郎より来状、○夜、帝国学士院に赴く、○石田梅巖の「都鄙問答」を読む、○大倉書店、同文館及び啓成社より来状、

十三日、午前、桑田芳蔵、久保要蔵、安田勝蔵、長谷川小四郎、小宮山好夫来訪す、○「都鄙問答」を読む、○「中学修身」四百部の奥附を文学社に付与す、○午后、吉田宅に赴く、○堀田相爾来談す、○「都鄙問答」を読む、○「中学修身」一千部の奥附を金港堂に付与す、○夜、書状を小松原英太郎に送る、○大日本史料を読む、○勉強、

十四日、午前、竹村義忠より来状、○講義に大学に赴く、○浦谷熊

吉来談す、○「中学修身」四千部の奥附を金港堂に付与す、○午后、赤穂義士祭に浅草伝法院に赴き、所感を述ぶ、大石洋造、福本誠、井川直衛、高橋龍雄等と会見す、○扇澤義城及び小石川区役所より来状、○富山房より「陽明哲学」一部を送来る、○夜、休養、十五日、午前、James, The Principles of Psychology を読む、○午后、荒浪市平をして談話を速記せしむ、○杉浦重の使者来る、○堀由蔵、演説の筆記を携来る、○James, The Principles of Psychology を読む、○暴風、○夜、安田旭軒をして談話を速記せしむ、○Friedrich Paulsen, System der Ethik を読む、

十六日、午前、学習院に赴く、○「中学修身」三千二百部及び「商業修身」二百部の奥附を金港堂に付与す、○桑田芳蔵出発、歐洲に向ふ、○午后、哲学字彙の会に大学に赴く、○教科書会より書類来る、○文明協会より「世界の宗教」を送来る、○「中学修身」三千部の奥附を金港堂に付与す、○安田勝蔵より速記を送来る、○安田勝蔵の速記を訂正す、○夜、速記の訂正を金港堂に送る、○文部省図書課より書類を送来る、

十七日、午前、James, The Principles of Psychology 及び Bain, The Emotions and the Will を読む、○午后、講義に大学に赴く、○「中学修身」四千部及び「新編倫理」二百部の奥附を金港堂に付与す、○前田利為より書状及び「松雲公小伝」を送来る、○荒浪市平より速記を送来る、○帝国大学より「大日本史料」第六編之九を受取る、○浦谷熊吉、吉田雪子来談す、○夜、荒浪市平の速記を訂正す、

十八日、午前、八太徳三郎より談話筆記を送来る、○本野一郎、嘉納治五郎、山田源一郎より来状、○荒浪市平の速記を訂正す、○午后、「中学修身」二千部の奥附を金港堂に付与す、○有馬祐政来訪す、○速記を訂正す、○夜、小松原文相の招燕に永田町官邸に赴く、○井上十吉及び浅田栄次と文部大臣官邸に会见す、○速記を訂正す、

十九日、午前、枝元長夫より来状、○浦谷熊吉、手塚光貴来訪す、○速記を訂正す、○溪内式恵、田尻茂、亀井高孝、岡村喜代志、千葉勉、千葉茂、高橋健自、東亜協会々員となる、○「中学修身」一千八百部の奥附を金港堂に付与す、○午后、速記の訂正を浦谷熊吉に付与す、○政教社の速記を訂正す、○縫子、三越呉服店に赴く、○夜、哲学会に赴く、

二十日、午前、樋口秀雄、久保要蔵と共に群馬県伊勢崎に赴く、○午后、零時半頃伊勢崎に到着、乃ち「富と徳と壽」に就いて演説す、森村堯太、井下久馬、宮田左京、星野源左衛門、長尾平次郎等と会见す、○不在中原平吉、長谷川福平、春木一郎、林政穂、花輪郡蔵、森良三郎来訪す、○伊澤修二、瀧澤菊太郎等より来状、○同文館より「哲学大辞書」の第二冊を送来る、

廿一日、春季皇靈祭、午前、枝元長夫来訪す、乃ち談話を筆記せしむ、○浦谷熊吉来談す、○午后、富田順吉より「福岡市案内」を送来る、○政教社の速記を訂正す、○木村鷹太郎、磯江潤、松本洪、三輪笹市、長谷川小四郎来訪す、○帝国学士院より来状、○縫子、清子を拉して神田の青年会館に赴く、○夜、赤穂義士講演

の速記を訂正して八太徳三郎に送る、○孔子の教説に関する政教社の筆記を訂正す、

廿二日、午前、江部淳夫、若木貞一來訪す、○政教社の筆記を訂正す、○枝元長夫より筆記を送来る、○午后、筆記の訂正を八太徳三郎に送る、○筆記の訂正を枝元長夫に送る、○橋本義太郎来訪す、○夜、書状を浦谷熊吉に送る、○雪、○Bain, The Emotions and the Willを読む、

廿三日、午前、枝元長夫の筆記を訂正す、○学習院女学部へ赴く、○午后、文科大学教授会に赴く、尋いで哲学字彙の会に莅む、○小林義則より来状、○不在中小豆澤英男及び瀧田哲太郎来訪す、○夜、筆記の訂正を枝元長夫に送る、○Bain, The Emotions and the Willを読む、

廿四日、午前、森村堯太、瀧田哲太郎、浦谷熊吉来訪す、○大日本統蔵経二套を郵便局より受取る、○英爾を大学に遣はす、○Bain, The Emotions and the Willを読む、○午后、講義に大学に赴く、○瀧田哲太郎来訪す、乃ち談話を筆記せしむ、○Bain, The Emotions and the Willを読む、○夜、大日本史料を読む、○中島徳蔵より来状、○大谷勝真来訪す、

廿五日、午前、元良勇次郎及び国語調査会より来状、○小池槌橋来訪す、○教界春秋を草す、○所得税参拾八円〇四銭、府税、市税、区費六円四拾銭、合計、四四、四四を区役所に納む、○午后、「女子修身」一千五百部の奥附を金港堂に、「中学修身」九百七拾部の奥附を文学社に付与す、○大隈重信の「国民読本」を読む、○

浦谷熊吉来談す、○「教界春秋」を日清印刷会社に送る、○児女等上野動物園に赴く、○隆文館より「肥後文献叢書」(三)を送る、○「義士祭所感」中外日報に出で「富と徳と壽」群馬新聞に出づ、○夜、「国民読本」及び「大日本史料」を読む、○金港堂より来状、

廿六日、午前、「堀内伝右衛門覚書」を読む、○請取を金港堂に送る、○英爾を東海銀行に遣はす、○縫子、吉田宅に赴く、○午后、宇野哲人来訪す、○「松山藩元禄日記」を読む、○文部省より「国定修身教科書」二冊を送来る、○教科書会より書類来る、○夜、「波賀清大夫覚書」及び「四十六士物語」を読む、

廿七日、午前、田中義能、三澤糾、花輪郡蔵、大田黒作次郎、岡島誘、山鹿誠之助、若木広良、浦谷熊吉来訪す、○午后、東亜協会研究会を大学山上御殿に開く、講演者加藤弘之、久米邦武、西村豊、福本誠、長谷川芳之助、三上参次、井上哲次郎、○不在中井上鑲来訪す、○箕作元八より来状、○夜、休養、○大隈重信より来状、廿八日、午前、土方久元より来状、○若木貞一來訪す、Haeckel、

Die Lebenswunder を読む、○午后、花輪郡蔵来る、乃ち之をして談話を筆記せしむ、○「中学修身」三千一百部の奥附を文学社に付与す、○目黒甚七、坂本嘉治馬来訪す、○春枝、尋常小学を卒業し、正勝、尋常小学三年を卒業す、○引続きHaeckelを読む、○「東亜の光」発行高、一月は三千四百、二月は三千三百、三月は三千二百、四月は三千四百、○夜、引続きHaeckelを読む、○「都鄙問答」を読む、○Kraft-Ebing, Psychopathia Sexualis を読む、

○文部省図書課より書類来る、

廿九日、午前、森山章之丞より来状、○縫子、清子を拉して三越呉服店に赴く、○英爾を文部省に遣はす、○浦谷熊吉来談す、○Haeckel, Die Lebenswunder を読む、○午后、高木武、加藤玄智来訪す、○書状を帝国学士院に送る、○「富と徳と壽」上州新報に出づ、○蕃山祭事務所より来状、○Haeckel, Die Lebenswunder を読む、○夜、「都鄙問答」及びKraft-Ebing, Psychopathia Sexualis を読む、○文科大学より来状、○小杉榎邸逝く、享年七十七、「頁下部に「小杉博士逝く」の新聞記事切抜貼付」

三十日、午前、書状を穂積陳重に送る、○「教育と修養」の原稿を整理す、○午后、西田政造、西村真次来訪す、○原稿を整理す、○夜、在伯林朝永三十郎、野田美夫等より絵葉書来る、○穂積陳重より来状、○教科書会より書類来る、○原稿を整理す、○Kraft-Ebing, Psychopathia Sexualis を読む、○此日、坂口前来訪す、

卅一日、午前、暁星学校より来状、○原稿を整理す、○英爾を三井銀行に遣はす、○宣光、中学三年に進級す、○午后、森良三郎、浦谷熊吉来談す、○同文館の為に使者来る、○原稿を整理す、○高橋穰、東亜協会々員となる、○夜、原稿を整理す、○Kraft-Ebing, Psychopathia Sexualis を読む、○公爵岩倉具定薨す、

四月

一日、午前、森良三郎、辻本卯蔵、矢野太郎及び帝国学士院の事務

員来訪す、○原稿を整理す、○浦谷熊吉より「東亜の光」(五の四)を送来る、○小杉楡邨の死亡通知書来る、○午后、葛岡敬雄より使者来る、○原稿を整理す、○夜、吉田雪子来る、○原稿を整理す、○Krafft-Ebing, Psychopathia Sexualis を読む、○此日、「歴史的宗教より道徳」毎日電報に出づ、

二日、午前、京華女学校より来状、○原稿を整理す、○書状を枝元長夫に送る、○櫻井一義来訪す、○富山房より「東亜の光」(五の四)拾部を送来る、○午后、相良益次郎来訪す、○「富と徳と壽」上毛新聞に出づ、○原稿を整理す、○英爾をして小杉楡邨の葬式に青山に会せしむ、○夜、原稿を整理す、○野田義夫より縫子に絵葉書を送来る、○Krafft-Ebing, Psychopathia Sexualis を読む、

三日、神武天皇祭、午前、「宗教統一の基礎的觀念」六合雑誌に出づ、○弘道館より「教育的倫理学」を送来る、○伊藤吉之助、武内紫明、伊藤幸一、増田惟茂、井上鑲来訪す、○午后、原稿を整理す、○福井嘉納来訪す、○妻女一同、興讓館の運動会に赴く、○夜、原稿を整理す、○Krafft-Ebing, Psychopathia Sexualis を読む、○此日、伊藤幸一、書齋の写真を取る、

四日、午前、林高美、秋月胤継来訪す、○反省社より書状と菓物壺籠を送来る、○午后、「中学修身」九百部の奥附を文学社に付与す、○高等学校会議に文部省に赴く、○首藤陸三来訪す、○英爾をして江口保之助の葬式に品川に会せしむ、○丙午出版社より「釈尊の研究」及び「偉人の跡」を送来る、○渡辺海旭より「The Story of Kalmāsāpāda and its Evolution in Indian Literature」を送来る、

○夜、北澤あきのより来状、○葛岡敬雄来談す、○Krafft-Ebing, Psychopathia Sexualis を読む、

五日、午前、楠山正雄、浦谷熊吉来訪す、○国書刊行会より「赤穂義人纂書」及び「黒川真頼全集」を送来る、○午后、岩橋遵成来訪す、○京華高等女学校に赴く、○夜、本庄精次、西村真次来訪す、○西村真次をして談話を筆記せしむ、○帝国学士院及び山田安榮より来状、○Krafft-Ebing, Psychopathia Sexualis を読む、○此日、不在中原平吉来訪す、

六日、午前、椎名比天来訪す、○原稿を整理す、○縫子、春枝を拉して雙葉女学校に赴き、入学の手続をなし、直に入学済となる、○午后、辻本卯藏来る、乃ち之に「教育と修養」の原稿を付与す、○九鬼隆一、東亜協会賛助員を承諾するの旨を報道し来る、○原平吉来訪す、○原稿を整理す、○金港堂より来状、○夜、原稿を弘道館に送る、○Krafft-Ebing, Psychopathia Sexualis を読む、

七日、午前、松平直亮来訪す、○弘道館より書状及び「和訳論語纂註」の原稿を送来る、○「女子修身」四百三十部、「農業修身」二百部、「倫理総説」一百部の奥附を金港堂に付与す、○契約書を弘道館に送る、○竹柏会より来状、○松平直亮、東亜協会々員となる、○午后、日本女学校の卒業式臨み、一場の訓話をなす、○不在中、浦谷熊吉来訪す、○西村真次より書状と原稿を送来る、○原稿の訂正を西村真次に送る、○若木貞一より来状、○夜、「和訳論語纂註」を校閲す、○Krafft-Ebing, Psychopathia Sexualis を読む、

八日、午前、多田房之輔、林喜江太郎、塚原政次、浦谷熊吉来訪す、

○大隈伯より Fifty years of new Japan を送來る、○「今後の実業教育に就いて」教育界に出づ、○「青年と宗教」読売新聞に出づ、○午后、小林照朗、堀謙徳、浦谷熊吉来訪す、○「勅語教本」五百部の奥附を晩成処に付与す、○弘道館より来状、○夜、興学会に山上御殿に赴く、○「東亜の光」(五の四)を九鬼隆一及び中島半次郎に送る、○集義外書及び Kraft-Ebing を読む、
 九日、午前、藤懸静也来訪す、○三輪物語を読む、○午后、増田惟茂来訪す、○三輪物語を読む、○研究、○縫子、児女を拉して三越に赴く、○原平吉来談す、○夜、研究、
 十日、午前、真山次郎、補永茂助、長谷川福平、西田幾太郎、古城貞吉来訪す、○不在中齋藤栄来訪す、○一、二、○上野発の汽車にて古河に赴く、○午后一、○過ぎ古河到着、直に熊澤蕃山祭場に赴き、「蕃山の学説」に就いて演説す、井上通泰、小久保喜七、細川潤次郎、花房義質、松井直哉、遠山英一、煙山專太郎、齋藤甲花、日下寛等と会見す、「頁下部に「古河の蕃山祭 各名士の有益なる講話」の新聞記事切抜貼付」○鮭延寺に赴き、蕃山の墓に謁し、尋いて桃園に遊ぶ、○夜、九時頃帰宅、
 十一日、午前、講義に大学に赴く、○午后、齋藤栄、岩橋遵成、原平吉、山田喜之助、深作安文、宮坂誠司来訪す、○書状を足立文太郎に送る、○夜、堀田相爾来訪す、○文科大学より来状、○ James, The Principles of Psychology を読む、○此日、小野湖山逝く、享年九十七、○長谷川小四郎、桜花を携來る、
 十二日、午前、長谷川福平来訪す、○「農業修身」二百部「女子修

身」五百部の奥附を金港堂に付与す、○書状を幸田露伴に送る、○ James, The Principles of Psychology を読む、○石川利之より来状、○午后、補永茂助来訪す、○引続き James を読む、○大倉書店及び山崎平次郎より来状、○夜、帝国学士院に赴く、○久米東海男より来状、○木村鷹太郎及び其他より端書來る、
 十三日、午前、学習院に赴く、○午后、教授会に大学に赴く、尋いで哲学字彙の会に莅む、○不在中手塚光貴来訪す、○「中学修身」四百五拾部の奥附を文学社に付与す、○帝国学士院及び本庄精次より来状、○「蕃山先生の学説」毎日電報に出づ、○同文館より「心理学通俗講話」を送來る、○「女子修身」三百部の奥附を金港堂に付与す、○夜 James, The Principles of Psychology を読む、○ Kraft-Ebing, Psychopathia Sexualis を読む、
 十四日、午前、「蕃山先生の学説」引続き毎日電報に出づ、○浦谷熊吉来談す、○ James, The Principles of Psychology を読む、○「蕃山の学説」日本新聞に出づ、○午后、講義に大学に赴く、○不在中広井辰太郎、有馬祐政来訪す、○書状を井芹経平に送る、○「左右尊卑考」を読む、○縫子、児女を拉して植物園に赴く、○「女子修身」式百部の奥附を金港堂に付与す、○夜、「左右尊卑考」を讀了す、○「日本人種論」を読む、○藤懸静也来訪す、○吉田雪子来談す、
 十五日、午前、「蕃山先生の学説」引続き毎日電報に出づ、○「日本人種論」を読む、○研究、○午后、小林義則より来状、○教科書会に文部省に赴く、○夜、動物愛護会に学士会事務所に赴く、

大内青巒、渡辺海旭等と会見す、卓上一場の演説をなす、○不在
中浦谷熊吉来訪す、○「孔子教の精神」「日本及日本人」に出づ、
○深作安文より原稿を送来る、

十六日、午前、有馬祐政、浦谷熊吉来訪す、○「日本人種論」を読
む、○G. J. Kernより来状、○午后、浦永茂助来訪す、○文部
省図書課及び浅野徳太郎より来状、○「日本人種論」を読む、○
葉書を帝国学士院及び櫻井鎮雄に送る、○植物園に緒方正規在職
廿五年の祝賀会に赴く、○夜、杉山直喜来る、○葛岡敬雄より来
状、○「日本考古学」を読む、

十七日、午前、辻村鑑、水上齊、遠藤隆吉、岩橋遵成、西田幾太
郎、齋藤栄来訪す、○足立文太郎より母斑に関する論文を送来
る、○午后、三宅米吉及び小金井良精を訪ふ、○若木貞一より来
状、○Franz Bopp, Ueber die Verwandtschaft der malayisch-
polynesischen Sprachen mit den indisch-europäischen を読む、
○夜、足立文太郎の Hautpigment beim Menschen und bei den
Affen を読む、

十八日、午前、講義に大学に赴く、○不在中堀田蔵来訪す、○
日之出生生命保険会社より来状、○午后、ロイド氏の訳文を Mr.
Kincaid に送る、○「朱子哲学」壱百部及び「古学哲学」五拾部
の奥附を富山房に付与す、○浦谷熊吉、杉江安忠来訪す、○森次
太郎より来状、○夜、縫子、清子、春枝及び吉田雪子と新富座に
赴く、○丹羽瀧男来る、乃ち談話を筆記せしむ、○文科大学より
来状、○Krafft-Ebing を読む、

十九日、午前、森良三郎、指原時次郎、工藤某、広井辰太郎来訪す、
○田中智学より来状、○James, The Principles of Psychology を
読む、○午后、「大日本続蔵経」二套を郵便局より受取る、○国
民文庫刊行会より「源氏物語」(下卷)を送来る、○秋山悟庵来
訪す、○引続きJamesを読む、○縫子、成美宅に赴く、○夜、
杉山直喜来る、乃ち談話を速記せしむ、○木村鷹太郎より原稿を
送来る、○建部遜吾より絵葉書を送来る、

二十日、午前、春山育次郎来訪す、○田中智学より来状、○学習院
に赴く、○午后、大学に赴き、横山又次郎を訪ふ、○不在中堀田
蔵来訪す、○田中智学より「日蓮聖人の教義」波多野精一より「ス
ピノザ研究」を送来る、○清水友次郎より使者来る、○浦谷熊吉
来訪す、○夜、James, The Principles of Psychology を読む、

廿一日、午前、浦谷熊吉、真山次郎来訪す、○James, The
Principles of Psychology を読む、○吉田雪子来る、○正勝、益
之進共に遠足に赴く、○午后、講義に大学に赴く、○文科大学よ
り来状、○帝国大学より「大日本古文書」(家わけ第三)を受取る、
○櫻井一義より来状、○不在中清水友次郎来訪す、○夜、竹本喜
平、石川松溪来訪す、○書状を浦谷熊吉に送る、

廿二日、午前、孔子祭典会及び帝国教育会より来状、○春山育次郎、
清水友次郎、平塚唯鳩、相原熊太郎来訪す、○文明協会より「欧
洲道德史」及び「十九世紀末年史」を送来る、○午后、帝国学士
院の委員会に山上御殿に赴く、○橋本義太郎来訪す、○元良勇次
郎より来状、○Spencer, The Principles of Psychology を読む、

○小野勇男、東亜協会々員となる、○英爾を文部省に遣はす、○夜、引続き Spencer を読む、○帝国教育会より来状、

廿三日、午前、浦谷熊吉、相澤熙来訪す、○ Spencer, The Principles of Psychology を読む、○三澤立身、石川利之より来状、○同文館より原稿を送来る、○午后、英爾を三井銀行に遣はす、○引続き Spencer を読む、○夜、日本学会に山上御殿に赴く、坪井正五郎及び幣原坦の講演あり、来会者約三十名、

廿四日、午前、武内紫明、古川黄一、森良三郎、浦谷熊吉、田邊元、北村教嚴、石田吉三、岩崎歌郎、宗像球夫来訪す、○午后、Wundt, Das System der Philosophie を読む、○哲学会に大学に赴く、○不在中大島直治来訪す、○夜、心理学会に赴き、「哲学上より見たる進化論」を講述す、

廿五日、午前、講義に大学に赴く、○午后、「東亜の光」口絵を日清印刷会社に送る、○寺原長輝より来状、○夜、心理学会臨時会に山上御殿に赴く、○不在中福泉義飽来訪す、○西田幾太郎より来状、○此日、縫子、益之進を拉して姉崎宅に赴く、

廿六日、午前、井芹経平より来状、○福泉義飽来訪す、○床次竹二郎より「欧米小感」を送来る、○「教界春秋」を草す、○石川利之より来状、○午后、帝国学士院の委員会に山上御殿に赴く、○宮内省より招待状来る、○日本弘道会より来状、○国書刊行会より「山鹿語類」第一、黒川真頼全集第二を送来る、○浦谷熊吉来談す、○夜、「教界春秋」を草して之を日清印刷会社に送る、○杉山直喜来る、○此日、清子、田中館母堂の葬式に谷中に赴く、

廿七日、午前、北村教嚴より来状、○学習院に赴く、○午后、哲学字彙の会に大学に赴く、○歯科医緑川に赴く、○毎日電報社より「カステイラ」大箱を送来る、○岩崎歌郎より書状及び「楠公と新教育」並に「ファウスト物語」を送来る、○姉崎袖子、井上波野、安田勝蔵来訪す、○森山章之丞及び榊田秀乘より来状、○加藤玄智、「釈迦牟尼仏」を携来る、○夜、三浦鉄太郎来訪す、○原稿を豊原清作に送る、○枝元長夫及び芳川顕正より来状、

廿八日、午前、勝田吉次郎、川魚壺箱を携来る、○温恭堂に赴く、○浦谷熊吉来談す、○午后、哲学の試験を行ふ、○同文館より「日本教育文庫」を送来る、○揮毫をなす、○白根鼎三より来状、○英爾を姉崎宅に遣はす、○夜、三省堂員来る、○葉書を平塚雕鳩及び浦谷熊吉等に送る、

廿九日、午前、国書刊行会より来状、○研究、○使者を文科大学に遣はす、○小金井良精を医科大学に訪す、○午后、人類学教室を訪ふ、○大学図書館に於て取調をなす、○歯科医緑川に赴く、○大倉書店より来状、○不在中学生奥田某来訪す、○中村徳五郎より「児島高德」を送来る、○夜、吉田熊次来談す、○ Andersen, Maori Life in Ao-Tear, Sibree, Madagascar and its people, Scidmore, Java, the garden of the East, John Foreman, The Philippine Islands, Gorst, New Zealand revisited を検読す、○此日、清子、逗子及び葉山に遠足に赴く、○「女子修身」二百部の奥附を金港堂に付与す、

三十日、午前、研究、○森良三郎来談す、○志水代次郎より来状、

○中村久四郎、「諸名家孔子観」を携来る、○午后、史学会大会に山上御殿に赴き「日、本、民、族、の、起、源、に、関、す、る、考、証」を講演す、上田芳一郎、小牧昌業、日下寛等と会見す、○文科大学、帝国学士院、勝田吉次郎及び學術講話会より来状、○夜、葛岡敬雄来談す、○清子、吉田雪子と神田に赴き、活動写真を観る、○「女子修身」一千五百部の奥附を金港堂に付与す、

五月

一日、午前、真山次郎、小山鞆絵、伊藤吉之助、上村觀光、原平吉外一人来訪す、○午后、一、一○新橋発の汽車にて大磯に赴く、車上加藤駒一郎と会見す、○三時過大磯着、小学校に於て「神道と教育」を講演す、○白坂栄彦（事務官）白根鼎三（中郡長）石川疏（足柄下郡長）福泉義飽（中郡視学）と会見す、○六時の臨時汽車にて出発、○夜、九時帰宅、○此日、不在中齋藤精輔来訪す、○亀谷聖馨より「空中鳥跡」を送来る、○国民文庫刊行会より「八犬伝」（第二巻）を送来る、

二日、午前、幸田成行より来状、○「中学修身」二百部の奥附を文芸社に付与す、○東洋哲学の試験を行ふ、○齒科医緑川に赴く、○午后、文科大学臨時教授会に山上御殿に赴く、○浦谷熊吉来談す、○夜、書状を東京朝日新聞社に送る、○高橋要次郎、徳川達孝より来状、○速記の訂正を浦谷熊吉に送る、○雜誌類を読む、○松本義顕、東亜協会々員となる、○夜半、烈風、

三日、午前、森良三郎、東讓三郎来談す、○書状を高橋要治郎及び志水代次郎に送る、○富山房より「東亜の光」（五の五）拾部を

送来る、○午后、中村熊男、杉江安忠来訪す、○中黒に赴き写真を取り、尋いで東明館に赴く、○縫子、益之進と高子とを拉して三越の小供博覧会に赴く、○文科大学より論文二篇を送来る、○夜、小林義則来訪す、○杉山直喜来る、乃ち談話を速記せしむ、○教員検定委員会より来状、○此日、宣光、遠足に妙義山に赴く、

四日、午前、学習院に赴く、○鳩山和夫、菊池大麓、坂本嘉治馬、吉田豊吉、山室軍平及びやまと新聞社等より来状、○弥富濱雄より書状及び宮本武蔵を送来る、○史学会員大谷勝真、参円の商品切手を携来る、○井上健児より浄光院皎月永照大姉十三回忌の為、菓子壺缶を送来る、○午后、浦谷熊吉、島田賢平（峰青）来訪す、○弘道館より来状、○「師範修身」二百部の奥附を金港堂に付与す、○夜、六、三○新橋出発、名古屋市に向ふ、

五日、午前、三、二四名古屋市着、直に名古屋ホテルに投す、○帝国教育大会に俱会議事堂に赴き、「日、本、民、族、と、文、明、統、一」を演述す、了りて高橋要治郎及び三橋得三と共に昼食をなす、○午后、共進会を一覧す、○此日、高橋要治郎（事務官）三橋得三（全上）藤塚鄰、龍谿觀興、芝田徹心、丸山環、日比野寛、幣原坦、肝付兼行、上田敏、鶴飼金三郎、志水代次郎、林喜江太郎（県視学）小川三之助、立見四郎、三浦渡世平（師範学校長）、篠島久太郎、樋口勘次郎、多田房之輔、江原素六等と会見す、○夜、教育大会の懇親会にホテルに莅む、○法学士日比野寛、東亜協会々員となる、○一二、○九、名古屋市を出発す、○談話筆記、中外日報に出づ、

六日、午前、九、〇〇新橋着、一〇、〇〇頃帰宅、〇不在中三好太郎
来訪す、〇帝国学士院、緒方正規、村上直次郎、Gramatky、並
に都新聞社等より来状、〇「中学修身」二百五拾部の奥附を金港
堂に付与す、〇鳩彦王殿下允子内親王殿下と結婚せらる、〇元田
肇、義弟の為に斬らる、〇午后、西澤之助より書状及び大魚を送
来る、〇大魚壺尾を吉田豊吉に送る、〇林勃爾来談す、〇夜、興
学会に赴く、〇不在中櫻井ちか子、西洋料理教科書を携来る、
七日、午前、浦谷熊吉、森良三郎来談す、〇午后、日本弘道会に斯
文学会に赴き、「道德の進歩に就いて」演説す、松本真弦、荒浪
平治郎、松平親信、中上喜三郎等と会見す、〇間端吾より絵葉書
を送来る、〇夜、吉田豊吉より来状、〇此日、英国皇帝エドワー
ド第七世崩御の報あり、崩御は六日午前なりと云ふ、
八日、午前、松浦一、島田賢平、櫻井一義、岩橋遵成、補永茂助、
羽山好作、鎌形定治来訪す、〇午后、千葉県安食町に赴き、一場
の講演をなす、〇不在中秋山悟庵、若木広良来訪す、〇夜、日清
印刷会社より校正来る、〇此日、渡辺良法、山内佐太郎より来状、
〇井上成美来る、
九日、午前、講義に大学に赴く、〇小藤文次郎より来状、〇午后、
島田賢平来る、乃ち談話を筆記せしむ、〇小池橋太郎、浦谷熊吉
来訪す、〇中黒より写真を送来る、〇夜、吉田豊吉及び鳥居たま
子の結婚披露の宴に富士見軒に赴く、〇日清印刷会社より校正来
る、
十日、午前、英国新皇帝ジョルジ五世登祚、新皇后マリーに就いて

報道あり、〇稲葉包通、浦谷熊吉来訪す、〇東亜協会の速記を訂
正す、〇午后、赤穂義士の原稿を日清印刷会社に送る、〇今村健
人、東亜協会々員となる、〇島田賢平より談話筆記を送来る、乃
ち訂正して之を国民新聞社に送る、〇歯科医緑川に赴く、〇石川
利之より来状、〇夜、校正をなす、〇校正を活版所に送る、〇校
正来る、〇吉田雪子来談す、

十一日、午前、学習院に赴く、〇乃木院長に集義和書、集義外書及
び大学或間を付与す、〇皇后陛下の賜物を女学部より受取る、〇
午后、鳩山和夫と菊池千代子との結婚披露の宴に華族会館に赴く、
〇教科書会より来状、〇夜、校正を活版所に送る、〇学生の論文
を読む、〇就寝後坂本嘉治馬来訪す、

十二日、午前、秋山悟庵、坂本嘉治馬、浦谷熊吉来談す、〇James
Principles of Psychologyを読む、〇日本仏教報恩協会より来状、
〇午后、講義に大学に赴く、〇矢板大安、大学に来訪す、〇齋藤木、
深作安文、及び日之出生命保険会社より来状、〇遠藤夏子来訪す、
〇不在中船木邦之助来訪す、〇夜、活版所より校正来る、〇校正
を活版所に送る、〇吉田夫妻来談す、〇此日、アーサー、ロイド
よりShiran and his Workを送来る、〇帝国大学より大日本古
文書を一冊受取る、〇石原即間より来状、

十三日、午前、英爾を浦谷宅に遣はす、〇校正をなす、〇大学の使
者来る、〇午后、浦谷熊吉来る、〇俗神道大意及び本朝高僧伝を
読む、〇大学より論文を送来る、〇校正を活版所に送る、〇「教
育上より見たる熊澤蕃山」教育学術界に出づ、〇夜、俗神道大意

を読む、○堀田相爾来談す、○遠藤隆吉より来状、○活版所より校正来る、

十四日、午前、俗神道大意を読む、大学の使者来る、○午后、文科大学より来状、○原平吉来訪す、○俗神道大意を読む、○研究、○夜、研究、○活版所より校正来る、○Krafft-Ebing Psychopathia Sexualisを読む、

十五日、午前、乃木希典、水上齊、長谷川小四郎、中村熊男来訪す、○午后、東亜協会大講演会を法科大学三十二番室に開く、講演者五名、聴講者五六百名、○夜、評議員会を山上御殿に開く、○不在中東敬治来訪す、

十六日、午前、講義に大学に赴く、○少しく腹痛を患ふ、○「赤穂義士に就いて」日本及び日本人に出づ、○午后、休養、○藤田季莊来訪す、○齋藤精輔日本百科大辞典第三巻を携来る、○夜、太田黒作次郎来訪す、乃ち之に額面壱幅を付与す、

十七日、午前、校正を日清印刷会社に、原稿を辻本卯蔵に送る、○浦谷熊吉来訪す、○源吉丸、蓑田長政、東亜協会々員となる、○占部真一來訪す、有_レ故不_レ遇、○午后、相澤熙来訪す、○林富蔵より来状、○縫子、成美宅に赴く、○大日本統藏経二套を郵便局より受取る、○英爾を東海銀行及び大学に遣はす、○大学より論文を送来る、○夜、杉山直喜来る、乃ち之をして談話を速記せしむ、○政教社より来状、○英爾をして林富蔵に返事を送らしむ、十八日、午前、学習院に赴く、○午后、哲学字彙の会に大学に赴く、○不在中平塚唯鳩、御礼の為に来る、○高橋要治郎、松原恭讓等

より来状、○在米岡岡部為吉より来状、○活版所より校正来る、○安田勝蔵来訪す、○夜、校正を活版所に送る、

十九日、午前、杉山直喜より速記を送来る、○同文館及び富山房より来状、○楠山正雄、原稿を携来る、○「日本民族の起原」国民新聞に出づ、○佐藤小吉より「神代物語」本間俊平より「独立」を送来る、○「我邦宗教の革新」精細に Japan Daily Mail に紹介せらる、○James, The Principles of Psychology を読む、○午后、講義に大学に赴く、○浦谷熊吉、安田勝蔵来訪す、○夜、「東亜の光」の口絵を活版所に送る、○安田勝蔵をして談話を速記せしむ、○校正をなす、○此日、Halley 彗星、太陽面を横ぎる、何等の變化をも認めず、○大掃除をなす、

二十日、午前、「日本民族の起原」引続き国民新聞に出づ、○校正を活版所に送る、○校正をなす、○運動に出づ、○午后、校正を活版所に送る、○鎌形定治及び同文館より来状、○原平吉、相原熊太郎、井上道喜、井上成美外三名来訪す、○学生の論文を審査す、○文科大学及び哲学会より来状、○夜、中島泰蔵、堀田相爾来訪す、○此日、英国先皇帝の大喪を行ふ、

廿一日、午前、「日本民族の起原」引続き国民新聞に出づ、○長谷川福平、浦谷熊吉、森良三郎、黒川真道来訪す、○松尾佺次郎より来状、○文科大学より使者来る、○書状を国民新聞社に送る、○午后、哲学会講演の準備をなす、○運動に出づ、○夜、校正を活版所に送る、○夜、文科大学、隆文館及び国民新聞社より来状、○研究、

廿二日、午前、「日本民族の起原」引続き国民新聞に出づ、○「東亜の光」臨時増刊「赤穂義士号」出づ、○竹内松治、水島耕一郎、伊藤吉之助来訪す、○安田勝蔵より速記を送来る、○午后、哲学会に大学に赴き、「唯物論と唯心論とに對する實在論の哲學的価値」を演述す、○夜、引続き哲学会の会食に山上御殿に赴く、○不在中林勃爾来訪す、○活版所より校正来る、○菊池大麓、鳩山和夫より来状、○研究、○太宰府管内志活版成る、○小谷重より来状、

廿三日、午前、講義に大学に赴く、○福田忠昭及び大野太衛より来状、○浦谷熊吉来談す、○富山房より「赤穂義士号」を二部送来る、○午后、松本真弦、黒川真通、櫻井一義、酒井田安敬来訪す、○速記の訂正を安田勝蔵に送る、○遠藤夏子、岩橋遵成の妻を携来る、○櫻井一義、東亜協会々員となる、○小池橋太郎より山葵沓包を送来る、○夜、校正を活版所に送る、○釈迦伝の原稿を訂正す、

廿四日、午前、勝水淳行来訪す、○釈迦伝の原稿を訂正す、○文明協会より「近世泰西英傑伝」を送来る、○運動に出づ、○縫子、井上道喜を青山に訪ふ、○午后、「教界春秋」を草す、○三省堂より金屏風を贈来る、○元良勇次郎及び小石川区役所等より書状来る、○堀謙徳来る、○大学の使者来る、○英爾を東海銀行に遣はす、○吉田熊次、「訓練論」を雪子に托して送来る、○夜、「教界春秋」を活版所に送る、○活版所より校正来る、

廿五日、午前、学習院に赴く、○吉田静致より来状、○午后、哲学

字彙の会に大学に赴く、○一ノ戸隆太郎、東亜協会々員となる、○伊澤千世子、及び読売新聞記者某来訪す、○「東亜の光」口絵を活版所に送る、○「道徳の進歩」中外日報に出づ、○夜、奈良県師範学校長某来訪す、○校正を活版所に送る、○音楽学校、東京市役所及び金港堂より来状、

廿六日、午前、浦谷熊吉、森良三郎来談す、○James, The Principles of Psychology を読む、○杉山直喜より来状、○午后、府税、市税、区費拾貳円六拾五銭、水道使用料九円五拾四銭を区役所に納む、○講義に大学に赴く、○「日本民族の起原」The Japan Times に出づ、○夜、校正を活版所に送る、○雷雨、○慧星明に見ゆ、

廿七日、午前、校正を活版所に送る、○加藤駒一郎、安田勝蔵来訪す、○Religions Reform in Japan. The Japan Magazine に出づ、○教科書会より書類来る、○運動に出づ、○国書刊行会より「甲子夜話」第一及び「黒川真頼全集」第三を送来る、○文科大学より使者来る、○午后、市教育会の入場券を藤田季莊、小林照朗、江部淳夫、石川岩吉、宮崎虎之助、堀田相爾、岩橋遵成、枝元長夫、林政穂に送る、○小林照朗来訪す、○「道徳の進歩」中外日報に出づ、○学生の論文を読む、○夜、校正来る、○学生の論文を読む、○校正を大倉書店及び日清印刷会社に送る、○文科大学より来状、○校正来る、

廿八日、午前、大田黒作次郎、鈴木筆太郎、林政穂より来状、○楠山正雄来訪す、○Wundt, Ethik を読む、○英爾を神田に遣はす、○文科大学の使者来る、○午後、中原司馬雄、小林照朗来訪す、

○ Wundt, Ethik 及び Spencer, Sociology を読む、○「日本民族

の起原」福井新聞に出づ、○夜、東京市教育会に高商講堂に赴き、「家族主義と個人主義とは如何に調和すべきか」を演述す、○小池橋太郎より来状、○活版所より校正来る、○此日、Koch 卒去す、

廿九日、午前、阿部維巖より書状及び茶を送来る、○校正をなす、○岩橋遵成、天生目一治来訪す、校正来る、○午后、英爾をして書状を小池橋太郎に出さしむ、○校正をなす、○清子、音楽学校に赴く、○辻本卯藏来訪す、○校正を活版所に送る、○龍山義亮より来状、○夜、校正を活版所に送る、○研究、

三十日、午前、講義に大学に赴く、○林政穂より来状、○堀謙徳より書状及び原稿を送来る、○午后、文科大学の集會に赴く、○不在中相澤熙、浦谷熊吉来訪す、○「個人家族兩主義の調和」毎日電報に出づ、○校正来る、○校正を大倉書店及び日清印刷会社に送る、○大島正徳来訪す、○金港堂より印税を送来る、○夜、杉山直喜の使者来る、○校正を活版所に送る、

卅一日、午前、村田稔亮、鷲津剛亮、浦谷熊吉来訪す、○鳥居忱、東亜協会々員となる、○校正を活版所に送る、○校正来る、○教科書会より書類来る、○愛知教育会より「愛知県写真帖」を送来る、○午后、国学院より「北野誌」及び「日本書紀伝」(第一)を送来る、○英爾を三井銀行に遣はす、○中原司馬雄来る、乃ち談話を筆記せしむ、○江藤邦松来訪し、東亜協会々員となる、○志賀重昂、喜望峰より絵葉書を送来る、○使者を大学本部に遣はす、○夜、堀田相爾来訪す、○校正を大倉書店及び日清印刷会社に送る、

六月

一日、午前、学習院に赴く、○午后、哲学字彙の會に大学に赴く、○不在中齋藤省三来訪す、○博文館より原稿を送来る、○校正来る、○原平吉来訪す、○「近時の宗教論」東京日々新聞に出づ、○「人間対生物論」警世に出づ、○隆文館より「肥後文獻叢書」第四卷を送来る、○東洋哲学追試験の答案来る、○夜、談話筆記の訂正を博文館に送る、○校正をなす、○此日、大日本雄弁會より来状、○教科書会より書類来る、

二日、午前、長谷川誠也、井上成美来訪す、○校正来る、○校正をなす、○校正を活版所に送る、○午后、講義に大学に赴く、○深作安文より来状、○「神道の過去及び将来」中外日報に出づ、○葛岡敬雄より使者来る、○縫子、齋藤省三宅に赴く、○夜、校正をなす、

三日、午前、「日本民族の起源」の評論、毎日電報に出づ、○富山房より「東亜の光」(五の六)拾部を送来る、○史学会より講演速記を送来る、○森良三郎、浦谷熊吉、岩田僊太郎来談す、○校正を活版所に送る、○書状を深作安文に送る、○文科大学の使者来る、乃ち之に哲学追試験問題と論文五篇とを付与す、○午后、英爾を東海銀行及び水道橋稅務署に遣はす、○「道德の進歩」福井新聞に出づ、○戸野周二郎、東京市講演會御礼の爲に来る、○相澤熙来訪す、○「神道の過去及び将来」中外日報に出づ、○校正をなす、○夜、長岡、三浦、石川、小金井等の諸教授の送迎會に大学山上御殿に赴く、○校正来る、乃ち校正を送る、○此日、

長谷川福平より来状、

四日、午前、校正を活版所に送ること二回、○「日本民族の起源」の評論、引続き毎日電報に出づ、○大鷄卵箱と浴衣一反を齋藤省三に送る、○山田暘朔及び齋藤一より来状、○午后、校正を活版所に送る、○「家族主義と個人主義」朝日新聞に出づ、○書状を阿部維巖に送る、○夜、校正来る、乃ち校正を送る、○今昔物語を読む、○此日、写真を阿部維巖に送る、

五日、午前、「日本民族の起源」の評論、引続き毎日電報に出づ、○齋藤木、櫻井一義、西田幾太郎、林政穂来訪す、○星野恒より使者来る、○校正来る、○小金澤久吉、東亜協会々員となる、○午后、縫子と共に日比谷の太神宮に赴き、齋藤省三と山田愛子の結婚に陪席し、次いで星ヶ岡茶寮に赴く、○夜、九時頃帰宅、○「陽明哲学」一百部の奥附を富山房に送る、○市村瓊次郎及び帝國学士院より来状、

六日、午前、千葉貞幹より来状、○浦谷熊吉来訪す、○釈慶淳、東亜協会々員となる、○研究、○「日本民族の起源」の評論、引続き毎日電報に出づ、○哲学の追試験を行ふ、○教科書会より書類来る、○午后、藤井健治郎来訪す、○研究、○校正来る、○夜、興学会に山上御殿に赴く、

七日、午前、村田稔亮より来状、○社会学の試験に大学に赴く、○午后、倫理学の試験をなす、○鈴木貞太郎及び仏教同志会より来状、○校正来る、○不在中角田松壽来訪す、○中黒より写真の復写を送来る、○開発社及びクレイ、マツコーレーより来状、○マ

ツコーレーより原稿を送来る、○「神道の過去及び将来」中外日報に出づ、○手塚光貴来訪す、○夜、書状を学習院女学部を送る、○校正を活版所に送る、○此日、「日本民族の起源」引続き毎日電報に出づ、

八日、午前、堀謙徳より来状、○哲学及び哲学史の試験に大学に赴く、○午后、引続き試験をなす、○不在中古川黄一、孫子諺義を携来る、○校正来る、○深作安文、荒浪平次郎、小谷重来訪す、○「道徳の進歩」引続き福井新聞に出づ、○吉田雪子来談す、○有樂社より「代表的日本人」を送来る、○原平吉より来状、乃ち之に返事を送る、○夜、校正を送る、○書状を龍山義亮に送る、○此日、「日本民族の起源」の評論、引続き、毎日電報に出づ、

九日、午前、坂本嘉治馬、浦谷熊吉及び信託社員名来る、○「神道の過去及び将来」読売新聞に出づ、○校正を送る、○午后、皆川朝吉、四宮兼之来訪す、○哲学字彙の会に大学に赴く、○夜、帝國文学会に大学山上御殿に赴く、○不在中国民新聞社より来状、○校正来る、

十日、午前、齋藤木、稲葉包通、宮崎彦磨来訪す、○「神道の過去及び将来」引続き読売新聞に出づ、○阿部維巖より来状、○深作安文の原稿を訂正し、之を宮崎彦磨に付与す、○午后、教科書会に文部省に赴く、○不在中井上道喜来訪す、○「学生宝鑑」二百部の奥附を大倉書店に付与す、○夜、研究、

十一日、午前、「神道の過去及び将来」引続き読売新聞に出づ、○心理学の口述試験に赴く、○不在中宮崎彦磨来訪す、○校正来る、

○小谷重より「宮本武蔵」を送来る、○Zeller, Die Philosophie der Griechen を読む、○午后、小尾範治来訪す、○引続きZeller を読む、○齋藤省三結婚の披露に上野精養軒に赴く、児島猷吉郎と会見す、○夜、日本学会に山上御殿に赴く、宮崎道三郎、本多辰次郎及び鳥居龍蔵の講演あり、

十二日、午前、齋藤木、小金澤久吉、葉山万次郎、四宮兼之、飯島忠夫来訪す、○Zeller, Die Philosophie der Griechen を読む、○午后、新仏教同志会の演説会に和強楽堂に赴き、「新仏教所感」を演述す、尋いで孔子教会に高商講堂に赴き、「孔子とソクラテス」を演述す、○夜、帝国学士院に赴く、○不在中風祭甚三郎来訪す、○此頃「日本民族の起原」の評論、長野新聞に出づ、

十三日、午前、山中隣之助より来状、○教育学の試験に大学に赴く、○午后、長谷川福平、木場了本、藤田季莊来訪す、○新仏教同志会より来状、○夜、孔子教会及び齋藤木より来状、○校正を送る、○此日、不在中風祭甚三郎、勝水淳行来訪す、

十四日、午前、山内佐太郎より来状、○宇野円空来訪す、○校正を送る、○午后、又校正を送る、○中島万次郎の原稿を訂正す、○文科大学より来状、○丙午出版社より「広長舌」及び「修養史譚」を送来る、○「大日本統藏経」二套を郵便局より受取る、○校正来る、○夜、校正を送る、

十五日、午前、学習院に赴く、○午后、宮崎彦磨、藤田季莊、ノルサ、相原熊太郎来訪す、○研究、○夜、縫子、紅葉館に赴く、○中島万次郎来訪す、○研究、○校正来る、○校正を送る、

十六日、午前、研究、○午后、研究、○書状を山内佐太郎に、葉書を鈴木貞太郎及び開発社に送る、○富山房より印税を送来る、○齋藤省三夫妻来訪す、○夜、研究、○此日、「道德の進歩に就いて」弘道に出づ、

十七日、午前、校正を送る、○浦谷熊吉、旭岩次来訪す、○午后、大学の図書館に赴く、○不在中小尾範治、山田又吉、勝水淳行来訪す、○帝王世紀、古史攷、釋史及び太平御覽を読む、○木場了本、松浦一來訪す、○哲学辞書の原稿を草す、○英爾を鴻池銀行に遣はす、○皆川朝吉より来状、○夜、井上道喜来訪す、○哲学辞書の原稿を草す、

十八日、午前、原稿を同文館に送る、○森良三郎、坂本嘉治馬、小尾範治、木場了本来訪す、○井上道喜赤坂に還る、○校正をなす、○山内佐太郎より絵葉書来る、○午后、田中万逸、黒川真通来訪す、○研究、○夜、研究、○校正来る、○帝国教育会より来状、

十九日、午前、乃木希典、水島耕一郎、今井彦三郎、大島正徳、天生目一治、浦谷熊吉、秋山悟庵、大野大衛来訪す、○午后、儒者捨場保存会及び東亜學術研究会に大学山上御殿に赴き、「支那古代の研究」を東亜學術研究会に講演す、○不在中岩崎歌郎来訪す、○夜、十時頃帰宅、田所美治、野田義夫、内ヶ崎作三郎より絵葉書来る、○校正来る、

二十日、午前、板原瑛夫、包を携来る、○村田恂二郎、小沼翠山、関谷長治、井上成美、坂本健一來訪す、○校正をなす、○「忘れられぬ宝満山」少年界臨時増刊に出づ、○「合邦後の教育」都新

聞に出づ、○午后、校正を送る、○鎌田政秀来訪す、○速記を訂正す、○文科大学及び山内佐太郎より来状、○夜、原稿を訂正す、○校正来る、○校正をなす、

廿一日、午前、浦谷熊吉、田中忠興来訪す、○校正を送る、○午后、「神道の過去及び将来」紀伊毎日新聞に出づ、○黒澤良臣より書状及び原稿を送来る、○旭岩次来る、乃ち談話を筆記せしむ、○手塚光貴来訪す、○哲学科卒業の謝恩会に山上御殿に赴く、○夜、哲学会に莅む、○不在中加藤玄智来訪す、○校正来る、○此日、松浦一及び文科大学より来状、○塚田新一、東亜協会々員となる、

廿二日、午前、学習院に赴く、男子部は此日を以て講義を了る、○午后、点数会議及び教授会議に山上御殿に赴く、尋いで哲学字彙の会に莅む、○「家族と個人」神戸又新日報に出づ、○豊島要三郎及び植田弥吉より来状、○山川正治、三森濱吉、鈴木貞太郎来訪す、○教科書会より書類来る、○夜、新聞を読んで休養す、

廿三日、午前、校正を送る、○森良三郎、水島耕一郎、旭岩次来訪す、○再び校正を送る、○書状を島田釣一に送る、○午后、大学の使者来る、○校正を送る、○開発社の原稿を訂正す、○原稿を開発社に送る、○運動に出で濱尾総長と逢ふ、○宮内省及び中村甚八郎より来状、○夜、校正をなす、○吉田雪子来る、○此日、野田静雄の為に香典を送る、

廿四日、午前、岩田僊太郎、内藤慶助、浦谷熊吉来訪す、○宮内省に赴き賜物を拝領す、○不在中樋口長衡来る、○「The Philosophical Review」三冊来る、○「倫理の根本主義」躬行会叢

誌に出づ、○校正来る、○校正を送る、○午后、英爾を学習院に遣はす、○教界春秋を草す、○長谷川福平来訪す、○校正来る、○田中忠興より来状、○夜、「教界春秋」を活版所に送る、○校正を送る、○金港堂より来状、

廿五日、午前、三井銀行に赴く、○哲学字彙の会に莅む、○小野福平、東亜協会々員となる、○午后、山内佐太郎より来状、○校正を送る、○林勃爾来談す、○「家族と個人」引続き紀伊毎日新聞に出づ、○教科書会より書類来る、○日比谷大神宮撮影の写真来る、○夜、校正を送る、○縫子、児輩を拉して活動写真に赴く、○金港堂、日本宗教会より来状、○校正来る、

廿六日、午前、山田暘朔、小沼翠山、豊原清作、岩崎歌郎、岩橋遵成、補永茂助、齋藤木、富田とらき、光岡安芸来訪す、○午后、辻本卯藏来訪す、○藤村作、東亜協会々員となる、○校正を送る、○西澤之助より来状、○富山房より使者来る、○夜、「東亜之光」口絵を送る、○Kraft-Ebing, Psychopathia Sexualis を読む、○此日、姉崎益子、女子を分婉す、

廿七日、午前、在ライプチヒ市桑田芳蔵より来状、○在清国八木光貫より絵葉書来る、○浅野徳太郎及び内海格太より来状、○校正を送る、○浦谷熊吉来談す、○府税、市税、特別税八拾四錢五厘を区役所に納む、○縫子、姉崎宅、吉田宅及び博品館に赴く、○午后、旭岩次、大島正徳来訪す、○英爾を第百銀行に遣はす、○武士道叢書上巻（第九版）五百部の奥附を博文館に付与す、○校正をなす、○夜、茗溪会に赴き、藤井健治郎、岩田僊太郎及び内

藤慶助と会見す、○校正来る、○文科大学より来状、○校正を送る、
 廿八日、午前、校正来る、○校正を送る、○文明協会より「社会経
 済学」及び「近世欧羅巴の基礎」を送来る、○書状を山内佐太郎
 に送る、○小沼翠山来訪す、○哲学会の速記を訂正す、○縫子、
 贈物を間端吾宅に送る、○午后、校正来る、○校正を送る、○縫
 子、齋藤省三宅に赴く、○哲学会の速記を訂正す、○湯浅廉孫よ
 り「豊宮崎文庫目録」を送来る、○福山志料発行事務所より来状、
 ○夜、哲学会の速記を訂正す、

廿九日、午前、辻本卯藏より来状、○学習院女学部に赴く、○午后、
 教授会に大学に赴く、○不在中旭岩次来訪す、○校正来る、○校
 正を送る、○哲学会の速記を訂正す、○夜、吉田熊次、三浦哲郎
 来訪す、○哲学会の速記を訂正す、○暁星学校及び文部省より来
 状、○書状を乃木希典に送る、○教員検定委員会臨時委員被仰付、
 三十日、午前、旭岩次来る、乃ち之に原稿を付与す、○大島正徳来
 訪す、乃ち之に原稿を付与す、○哲学会の速記を訂正す、○三浦
 哲郎、森良三郎、成瀬仁藏来訪す、○午后、堀謙徳来訪す、乃ち
 之に原稿を付与す、○哲学字彙の会に大学に赴く、○不在中有馬
 祐政来訪す、○山内佐太郎来訪す、○夜、有馬祐政来訪す、
 此日、本年度上半期の教科書検印総数を調査するに、

中学修身(金)-----二四八五〇
 女子修身-----一五九三〇
 新編倫理-----二〇〇
 農業修身-----九〇〇

商業修身-----二〇〇
 師範修身-----九〇〇
 合計-----五二九八〇
 中学修身(文)-----一〇七二〇
 合計-----六三七〇〇
 勅語教本-----九八二
 朱子哲学-----一〇〇
 古学哲学-----五〇
 陽明哲学-----一〇〇
 学生宝鑑-----二〇〇
 武士道叢書-----五〇〇
 総計-----六五七三二

巽軒日記

〔明治四十三年(西曆一九一〇年) 下半年〕

〔七月〕

一日、午前、辻本卯藏「」○縫子を三井銀行に遣はす、○校
 正を「」郎、東亜協会々員となる、○午后、国語調査会に
 文部省に赴く、○土屋幸正、齋藤苗夫妻及び吉田雪子来訪す、○
 夜、校正を送る、○此日、不在中小杉醇来訪す、
 二日、午前、女子大学より来状、○谷慶祐来訪す、○校正を送る、
 ○午后、土屋幸正来訪す、○校正をなす、○夜、中島力造の歓迎

会に山上御殿に赴く、○松平金雄、皆川朝吉、東亜協会々員となる、○同文館より訓誡篇中巻一冊を送来る、○望月写真館より写真を送来る、

三日、午前、江藤邦松、原平吉、齋藤木、若木広良、補永茂助、田中義能来訪す、○午后、校正を送る、○再び校正を送る、○吉田宅に赴く、○夜、校正を送る、○校正来る、○正勝、益之進、吉田宅に赴く、

四日、午前、浦谷熊吉来談す、○「東亜の光」(五の七)成る、○「神道の過去及び将来」東亜の光に出づ、○師範修身編纂要綱を読む、○午后、藤井健治郎、宇野哲人来訪す、○教科書会より来状、○夜、興学会に山上御殿に赴く、○山内佐太郎、文科大学及び国学院より来状、○此日、女学部より御礼を送来る、

五日、午前、北村教嚴及び鈴屋遺蹟保存会より来状、○校正来る、○校正を送る、○電話使用料一六、五〇を郵便局に納む、○シブリーの著書二部を坪井正五郎に返し、別に書状と菓物壱籠を送る、○英爾を大学と東海銀行とに遣はす、○安富成中来訪す、○午后、小林一郎、白坂栄彦来訪す、○学生の答案を読む、○英爾を小井良精宅に遣はす、○帝国学士院より来状、○夜、書状を円藤鎮及び金港堂に送る、○葛岡敬雄来談す、○校正来る、

六日、午前、校正来る、○校正を送る、○渡辺徹来訪す、○学習院女学部へ赴く、○午后、教授会に山上御殿に赴く、○不在中野田麟太郎、菓子を携来る、○中西牛郎より Tenrikyo を巻部送来る、○原田淑人、東亜協会々員となる、○佐々木信綱より菓子箱を送

来る、○夜、教科書会より来状、○姉崎袖子来訪す、○此日、藤井玉枝より豆銀糖を送来る、

七日、午前、水島耕一郎来訪す、○英爾を大塚保治宅及び浦谷熊吉宅に遣はす、○菓子箱を大塚保治に送る、○校正来る、○校正を送る、○午后、哲学字彙の会に大学に赴く、○校正を送る、○夜、文科大学懇親会に植物園に赴く、○浦谷熊吉来談す、

八日、午前、一〇、一〇両国出發、○午后、零時過ぎ、佐倉着、相模屋に休憩し、後、中学校に赴く、「三宝の説」を演述す、六、○出發、○夜、八、〇〇頃帰宅、○此日、愛知県教育会、村越銃之輔、服部宇之吉、及び帝国学士院より来状、○校正来る、○愛知県教育会より演説速記を送る、○磯江潤より「商品切手」を送来る、○齋藤庸一郎、贈物を携来る、○文部省より印刷物数部を送来る、

九日、午前、浦谷熊吉、葛岡敬雄、井上道喜、辻本卯藏来訪す、○原秀四郎、菓子箱を携来る、○午后、黒川真道、敷島を携来る、○「孔夫子とソクラテス」信濃毎日新聞に出づ、○英爾を文部省に遣はす、○東亜協会表議委員会に学士会事務所に赴く、○夜、八時頃帰宅、○文科大学より来状、○校正を送る、○此日、女学部女教員吉村某来訪す、

十日、午前、山内佐太郎より来状、○岩橋遵成、松浦一、麻生正藏、補永茂助、船田三郎、葉山万次郎、北村教嚴、渡辺誠吾来訪す、○国書刊行会より「甲子夜話」(第二)及び「赤穂義人纂書」(第二)を送来る、○森良三郎、菓物を携来る、○午后、弘道館より

書状と校正とを送る、○帝国学士院及び華山会より来状、○校正をなす、○夜、校正を送る、○高島平三郎より来状、

十一日、午前、卒業式に大学に赴く、○不在中山田貴実来訪す、○

「華山会より「遺芳帖」を送る、○午后、富山房より「夏シャツ」

を送る、○浦谷熊吉来談す、○文部省より来状、○校正をなす、

○同文館より文房具壺箱を贈来る、○夜、隆文館よりピール壺打、

村松喜太郎よりサイダー壺打を送る、○校正を送る、○校正来

る、○再び校正を送る、○此日、北村教巖より菓物壺籠を送来る、

十二日、午前、高橋里美、安富成中来訪す、○校正を送る、○六盟

館よりハンケチ二打、村田五郎より鯉節、清水満之助より砂糖壺

樽を送来る、○婦人画報社より浴衣壺反を送来る、○午后、野田

麟太郎、ハンケチ壺箱を携へて来訪す、○杉山直喜来る、乃ち之

をして速記せしむ、○井上成美、林平次郎より贈物を遣はし来る、

○文科大学、小宮三保松より来状、○夜、帝国学士院に赴く、○

坪井九馬三より来状、○校正来る、○弘道館よりサイダー壺打、

石川栄司よりタワル、吉田久兵衛より菓子壺箱を送来る、○此日、

博品館に於て種々物品を購入して還る、○清水正健、西村圭、島

崎利信、東亜協会々員となる、

十三日、午前、校正来る、○校正を送る、○再び校正を送る、○深

作安文、浦谷熊吉、井上成美来訪す、○法貴慶次郎より菓子壺箱

を送来る、○午后、文学社よりビスケット壺缶、三省堂より鶏

卵箱を送来る、○校正来る、○校正を送る、○吉村千鶴、東海林

辰三郎来訪す、○笹川老母、贈物を携来る、○菓子を姉崎に、鶏

卵箱を真浄寺に、菓子を村松に送る、○姉崎より菓子箱来る、○夜、高島平三郎の招燕に学士会事務所に赴く、福島安正、三宅雄次郎、瀬川光行、岩谷季雄、松本孝次郎等と会見す、○齋藤製作所より贈物を送来る、○校正を送る、

十四日、午前、松浦一、春山育次郎来訪す、○杉山直喜より速記を

送来る、○教授会に大学に赴く、○不在中三澤糾、「国民性と教

育方針」を携へて来訪す、○英爾を遣はして贈物を吉田熊次及び

井上成美に送る、○午后、木川又吉郎、原平吉来訪す、○速記を

訂正す、○「哲学上より見たる進化論」哲学雑誌に出づ、○西田

幾多郎の送別会に学士会事務室に赴く、○夜、不在中堀田相爾来

訪す、○吉田夫妻来談す、○校正来る、○校正を送る、

十五日、午前、紀平正美、浦谷熊吉、服部北溟来訪す、○速記を訂

正す、○柏五郎、木村伝、東亜協会々員となる、○文科大学より

来状、○午后、速記を訂正し了る、○宮崎虎之助、蜷川龍夫来訪

す、○堀謙徳より書状と原稿とを送来る、○興学会の速記を榎本

勝多に送る、○英爾を吉田宅に遣はす、○伊藤六蔵よりピール二

瓶を送来る、○友枝高彦、菓子箱を携へて来訪す、○夜、帝国学

士院に赴く、○吉田夫妻、山形の温泉場に赴く、

十六日、午前、「教育と修養」の序文を草す、○校正来る、○校正

を送る、○鳥居君子、葡萄酒三本を携来る、○午后、葉山万次郎、

岡田恒輔、岩橋遵成来訪す、○中ノ内為彦より来状、○引続き序

文を草す、○堀田相爾来談す、乃ち之に「敷島」壺箱を付与す、

○夜、小松原文相より来状、○「教育と修養」の序を活版所に送

る、○三省堂の原稿を訂正す、○相原二郎介、船越文教、黒田朋信、多木悦造、宇野円空、佐々木慶成、安富成中、諏訪富多、坊城堅了、松崎覚惇、東亜協会々員となる、○此日、益之進、数日来の病氣軽快、○中村多賀子逝く、

十七日、午前、中島万次郎、宮本和吉、江藤邦松、水上齊、小林愛雄、梶田秀乗来訪す、○児島貞、谷慶祐、水島耕一郎、渡辺誠吾、渡辺徹、東亜協会々員となる、○吉田夫妻、羽前五色温泉より絵葉書来る、○午后、小西重直、尾上八郎来訪す、○三省堂の原稿を訂正す、○伊澤修二よりピール半打と半襟沓筒を送来る、○夜、伊予大洲中学校予章会々長村越銃之輔より花瓶沓筒を送来る、○三省堂の原稿を訂正し了る、

十八日、午前、西田幾多郎、浦谷熊吉、森良三郎、堀謙徳来訪す、○穂積八束及び富山房より来状、○英爾を中村正修宅に遣はし、菓物を贈らしむ、○午后、芝辻正晴、ハンケチ沓箱を携へて来訪す、○「教育と修養」一千部の奥附を弘道館に付与す、○「商業修身」一百部の奥附を金港堂に付与す、○富山房より「漢文大系」(巻二)を送来る、○葛岡敬雄より書状及び「金鶏の光」を送来る、○東亜協会の速記を訂正す、○若木貞一、林勃爾来訪す、○夜、神道研究会に第二学生集会所に赴く、○此日、大分県東国東郡長三好成より来状、

十九日、午前、藤懸静也、西田宏、高市予興、樹下快惇、佐藤清岡徳命、小野秀雄、東亜協会々員となる、○「大日本統蔵経」第壹輯第貳編二套を受取る、○書状を小松原文相に送る、○竹越英

一、村上直次郎の書状を携へて来訪す、○板原瑛夫、東亜学術研究会の速記を携来る、○東亜協会の速記を訂正す、○午后、浦谷熊吉来訪す、○活版所の使者来る、○引続き速記を訂正す、○原稿を浦谷熊吉に送る、○夜、友枝高彦の送別会に学士会事務所に赴く、○不在中中島泰蔵及び堀田相爾来訪す、○此日、大島正徳より為換を送来る、○島本愛之助より来状、

二十日、午前、辻本卯蔵、小杉熙、補永茂助、田中義能より来状、○浦谷熊吉、堀田相爾、小林義則来訪す、○三宅米吉、木川又吉郎、東亜協会々員となる、○速記を訂正す、○午后、山田貴実来訪す、○辻本卯蔵より来状、○英爾をして中村多賀子の葬式に谷中会せしむ、○速記を訂正す、○夜、小松原文相の招燕に官邸に赴く、○菊池大麓より「新日本」を送来る、○軍人勅諭の英訳委員に指令せらる、

廿一日、午前、東京市の速記を訂正す、○黒川真道来訪す、○午后、引続き速記を訂正す、○「新修身書」を訂正す、○富山房の使者来る、○井上道喜、齋藤苗妻、中島泰蔵来訪す、○東京市役所より「講演集」を送来る、○夜、「新修身書」を訂正し了る、

廿二日、午前、文明協会より「現代独逸の発展」を送来る、○「東亜の光」口絵を活版所に送る、○宇野哲人、松本愛重、浦谷熊吉及び文学社員来訪す、○午后、萩原堯、鷺見剛亮来訪す、○市役所の使者来る、○元良勇次郎より来状、○速記を訂正す、○妻女三越に赴く、○夜、有馬祐政、堀田相爾来訪す、○速記を訂正す、廿三日、午前、小山鞆絵来訪す、○濱尾総長を大学に訪ふ、帰

途、元良勇次郎を訪ふ、○藤田四郎妻聞子死亡通知書来る、○書状を浦谷熊吉に送る、○午后、秋山悟庵、文学社員某、春山育次郎、辻本卯藏来訪す、○速記を訂正す、○「教育と修養」成る、弘道館より五部受取る、○夜、速記を訂正す、○坂根某より Kautschou-Post (山東彙報) を送来る、中に Der Buddhismus in Japan と題せる宗教論の紹介あり、

廿四日、午前、田邊元、三島復、榊田秀乘、安田勝藏、森良三郎、遠藤隆吉来訪す、○龍谿觀興来訪す、○海野幸徳より「日本人種改造論」を送来る、○弘道館の使者来る、○午后、元良勇次郎を訪ふ、○安田勝藏来る、乃ち之をして談話を速記せしむ、○教界春秋を草す、○田邊元より来状、○夜、芝辻正晴より絵葉書来る、○教界春秋を草す、○此日、井上道喜、博多に帰る、

廿五日、午前、辻本卯藏より来状、○浦谷熊吉来談す、○教界春秋を送る、○池袋村に赴く、○史学会の速記を訂正す、○水戸塾長渡辺正順、東亜協会々員となる、○市街宅地租參円參拾七錢を区役所に納む、○午后、榊田秀乘より来状、○小林一郎、小林郁来訪す、○速記を訂正す、○遠藤隆吉よりサイダー半打を送来る、○英爾を元良宅に遣はす、○「教育と修養」を中島徳藏に送る、○漢籍国字解全書(十一)を送来る、○夜、境野哲より来状、○史学会の速記を訂正す、○此日、井上健児より鶏卵素麵、大倉書店より「鮮のつけかた」を送来る、

廿六日、午前、岡野義三郎より絵葉書を送来る、○速記を訂正す、○国書刊行会より甲子夜話及び近世文芸叢書を送来る、○午后、

本澤治三郎、本吉直二、鈴木在念、高柴金一郎、岡部龍玄、岡田恒輔、奥田誠一、大溝惟一、河野清丸、田尻長兵衛、中村一衛、仲栄壽、村島靖雄、村山義孝、窪顕亮、松村武雄、藤源真亮、後藤多喜藏、岡村害三、以上拾九名、東亜協会々員となる、○高島円、葛岡敬雄、坂本嘉治馬来訪す、○速記を訂正す、○英爾を元良宅に遣はす、○夜、速記を訂正す、○此頃、有珠山噴火、

廿七日、午前、浦谷熊吉、平塚唯鳩来訪す、○速記を訂正す、○姉崎宅より鳥の子餅を送来る、○大倉書店より末広二本を送来る、○平塚唯鳩、東亜協会々員となる、○縫子、須田眼科医院に赴く、○午后、堀田相爾来談す、○前川万次郎、松坂善吉、目黒甚七、東亜協会々員となる、○「勅語教本」三百部の奥附を晚成処に付与す、○速記を訂正す、○岩田僊太郎よりハンケチ壹打を送来る、○英爾を尾上八郎に遣はし、ビール壹打を送る、○夜、速記を訂正す、○高木武来訪す、○弘道館より「教育と修養」拾五部を送来る、

廿八日、午前、速記を訂正す、○妻女一同、日比谷公園に遊ぶ、○赤井直好、茶器壹箱を携へて来訪す、○午后、岩田僊太郎来訪す、○元良勇次郎を訪ふ、○鯉節を鳥居龍藏に、ビール壹打を佐々木信綱に送る、○速記を訂正す、○松山直藏及び小石川区役所並に服部浩眠より来状、○夜、速記を訂正す、

廿九日、午前、八、一七清子、宣光を拉して、元良勇次郎と共に新橋を出発し、一〇、〇〇頃鎌倉着、直に飯島に赴き、元良氏別荘を観る、尋いで光明館に抵り、昼食をなす、○午后、電車に乗り、

片瀬に赴き、江ノ島に遊び、藤澤より汽車にて帰る、○保々茂より来状、○東海林辰三郎より速記を送来る、

三十日、午前、川田鍊弥、サイダー壺打を携来る、○浦谷熊吉、前川又三郎、齋藤庸一郎、齋藤儀八来訪す、○齋藤二人と昼食をなす、○午后、浦谷熊吉より来状、○岩橋遵成来訪す、○速記を訂正す、○高島平三郎より絵葉書来る、○夜、速記を訂正す、○此日、豊島要三郎逝く、享年二十八、

卅一日、午前、森良三郎、三澤糾来訪す、○午后、桜蔭会に女子高等師範に赴き、「聖人に就いて」一場の演説をなす、中川謙二郎、甫守ふみ、井口あくり、宮川壽美、岡田みつ等と会見す、○不在
中高橋正熊来訪す、○此日、広田直三郎より「京城新報」を送来る、

八月

一日、午前、浦谷熊吉、瀧村斐男、板原瑛夫来訪す、○午后、木山熊次郎及び葛岡敬雄来訪す、○夜、勉強、○吉田豊吉全玉子より絵葉書来る、

二日、午前、東亜協会講習会を外国語学校に開く、講習員約二百名、○平塚唯鳩来訪す、○濱尾総長を大学に訪ふ、○午后、村上龍英来訪す、○勉強、○夜、齋藤一より来状、○勉強、○此日、齋藤省三より鳥の子餅及び鯉節を送来る、○堀謙徳より来状、○鳥居龍藏より論文を送来る、

三日、午前、講義に講習会に赴く、○「東亜の光」(五の八)成る、○江部淳夫及び藤本政介より絵葉書来る、○午后、目黒甚七より菓子箱を送来る、○英爾を遣はして濱尾新に「教育と修養」及び「東

亜の光」を送る、○下田たづ子、御礼の為に来る、○勉強、○夜、勉強、○松村正一、河野真男、中熊直喜より来状、○高島平三郎より絵葉書来る、○此日、井上成美来訪す、○弘道館より「倫理と教育」五部「教育と修養」四部とを送来る、

四日、午前、講義に講習会に赴く、○中西長次郎来訪す、○不在中東敬治来訪す、○濱尾新より来状、○葛岡敬雄より使者来る、○講習員数を調査するに、凡そ式百拾名あり、○午后、小尾範治、浦谷熊吉来訪す、○勉強、○夜、勉強、○赤坂探道より来状、○堀田相爾来訪す、

五日、午前、講義に講習会に赴く、○堀尾太郎来談す、○不在中春山育次郎来訪す、○午后、原田秀泰、沼田頼輔来訪す、○勉強、○夜、加藤玄智より絵葉書来る、○同文館より校正来る、

六日、午前、講義に講習会に赴く、○科外講演をなす、○不在中目黒甚七来訪す、○午后、安田勝蔵、藤井健治郎来訪す、○縫子、吉田夫妻と外出、河開きの煙火を観る、○田中義能の論文を読む、○夜、休養、

七日、午前、春山育次郎来訪す、○午后、神奈川県高等女学校に赴き、神職会の為に「神話と神道」を演説す、○白坂栄彦、新原俊秀、丹羽與三郎、三浦助一郎、副島知一、宮崎四郎、岡野欣之助、沼田頼輔、笠原昌吉と会見す、○午后、七、○○頃帰宅、○不在中河合秋平来訪す、○夜、松平直亮、角地藤太郎より来状、○田中義能の論文を読む、○此日、豊島要三郎の葬式を営む、○乗杉嘉壽より絵葉書来る、

八日、午前、講義に講習会に赴む、○午後、研究、○夜、研究、○此日「就職難と罪惡」に関する日々新聞の切抜来る、○各地大水あり、

九日、午前、講義に講習会に赴く、○深作安文より来状、○三沢糾内より書状と原稿とを送来る、○午后、文部省より来状、○国史眼を読む、○研究、○夜、国史眼を読む、○有馬祐政、渡瀬庄三郎及び富田順吉より端書来る、○審美書院より「日本絵画小史」及び「支那絵画小史」並に「正倉院志」を送来る、○各地洪水益々甚し、

十日、午前、堀尾太郎より来状、○講義に講習会に赴く、○鈴木讓三郎来訪す、○同文館より「日本教育文庫」(訓誡篇下)を送来る、○此頃、「孔子及び孔門の諸弟子に就いて」東洋学芸雑誌に出づ、○午后、堀田相爾来訪す、○「日本武士道」を読む、○夜、「日本武士道」を読む、○研究、○大雨、○東京市役所より「講演集」五部を送来る、

十一日、午前、講義に講習会に赴く、○コーツより絵葉書来る、○午后、The IV International Congress of Philosophy 及び International Moral Education Congress より来状、○英爾を遣はして「琉球の研究」を渡瀬庄三郎に返し、且つ「教育と修養」を寄送す、○「日本政記」及び「軍隊の精神教育」を読む、○吉田雪子来談す、○夜、「軍隊の精神教育」を読む、

十二日、午前、講義に講習会に赴く、○日清印刷会社より使者来る、○森良三郎来る、○「軍隊の精神教育」を読む、○講習員一同と

写真を取る、○午后、「千九百九年に於ける日本の兵力」及び「軍隊の精神教育」を読む、○夜、「千九百九年に於ける日本の兵力」及び Gordons, Clear Round を読む、○此頃、東京洪水益々甚し、

十三日、午前、講義に講習会に赴く、○森良三郎来談す、○午后、浦谷熊吉来訪す、○速記を訂正し、之を聚精堂に送る、○中朝事実及び日本政記を読む、○夜、日本政記を読む、○此頃、洪水甚し、十四日、午前、小杉熙、小池橋太郎より来状、○伊藤兼一、高島平三郎より端書来る、○富田順吉より贈物を送来る、○国学院より「日本書記伝」を送来る、○講習会に赴き、科外講義をなす、○午后、

選択集、使徒行伝及び Ernest Renan, Les Apôtres を読む、○山田修、齋藤基次郎より葉書来る、○小杉熙より紅葉子紫蘇巻を送来る、○隆文館より「肥後文献叢書(巻六)」を送来る、○井上成美来訪す、○夜、Ernest Renan, Les Apôtres を読む、○吉田夫妻来る、

十五日、午前、講義に講習会に赴く、○終了證書を与へ、閉会式を行ふ、○今村渡(大尉)、辰巳富吉(全)、小山永行(全)、周山満藏(中尉)、中村又雄(全)来訪す、○講習会茶話会に莅む、○浦井鍠一郎より絵葉書来る、○午后、「中学修身」二百部の奥附を文学社に付与す、○書状を小杉熙に、葉書を建部遯吾、石黒忠憲、伊藤兼一、東敬治、山田修等に送る、○石原即聞より絵葉書来る、○浦谷熊吉来談す、○日本政記を読む、○夜、引続き日本政記を読む、○国史眼を読む、○枝元長夫、堀謙徳及び竹林規矩夫より葉書来る、○此日、フロレンス、ナイチンゲール逝く、

享年九十一歳、

十六日、午前、鈴木讓三郎、菅谷徳次郎、塩見満、佐藤元蔵、齋藤保次、安藤基平、川名渡一、石山雄次郎（以上特別）永愛亮、宇野虎三郎、（通常）東亜協会々員となる、○文学社々員来る、乃ち之に原稿を付与す、○東敬治来訪す、○井上円了より来状、○葉書を藤田季莊、片岡久太郎、千葉鉦蔵、大槻文彦、枝元長夫、田中喜一等に送る、○書状を服部宇之吉に送る、○午后、岩橋遵成、浦谷熊吉、森良三郎、谷垣邦義、内山桃之進等来訪す、○国史眼を読む、○夜、日本政記を読む、○渡瀬庄三郎より来状、○葛岡敬雄、東亜協会の御礼を携来る、○清子、吉田宅に赴く、十七日、午前、片岡久太郎、千葉鉦蔵より葉書来る、○深澤政介、乃木大将の使者として講孟創記を返来る、○浦谷熊吉来談す、○聖人論を草す、○郵便局より「大日本統藏経」二套を受取る、○午后、引続き聖人論を草す、○野依秀一より来状、○大槻文彦より葉書来る、○伊沢修二より「国語正音法」を送来る、○夜、引続き聖人論を草す、○日本政記を読む、十八日、午前、大田黒作次郎、田中義能より来状、○中村正修より晴嵐上布を送来る、○若木広良、山田延弥来訪す、○聖人論を草す、○午后、文科大学の使者来る、○文学社の使者来る、○「中学修身」五拾部の奥附を文学社に付与す、○白坂栄彦、姉崎袖子、来訪す、○聖人論を草す、○服部宇之吉、赤間富次郎より来状、○夜、聖人論を草す、○此日、齋藤壽七、片桐佐太郎、齋藤一内より葉書来る、

九二

十九日、午前、小林照朗より絵葉書来る、○聖人論を草す、○小林郁来訪す、○「就職難と罪惡」山陰新聞に出づ、○午后、文部省より来状、○聖人論を草す、○夜、聖人論を草し了る、○古川勝隆及び富田貞松より水害見舞状来る、○清子、吉田宅に赴く、二十日、午前、木川寅次郎、浦谷熊吉、秋山悟庵来訪す、○文明協会より「民族發達の心理」及び「世界教育史要」を送来る、○日本政記を読む、○田中喜二より葉書、岡野義三郎より書状来る、○午后、乃木大将を赤十字社病院に訪ふ、○林勃爾来談す、○松村正一、尾原亮太郎より葉書、常盤大定、富田順吉より書状来る、○日本政記及び和漢名詩鈔を読む、○夜、日本政記を読む、○彙報を草す、廿一日、午前、皆川朝吉、林隆太郎より書状、大町美種、福井嘉納、吉田熊次、東敬治より葉書来る、○三島復、葛岡敬雄、西川愛蔵、嵩海蔵来訪す、○日本政記を読む、○彙報を浦谷熊吉に送る、○午后、大島正徳、黒川真通来訪す、○絵葉書を大町美種、福井嘉納、尾原亮太郎、片桐佐太郎、常盤大定、岡野義三郎、古川勝隆に送る、○書状を石川利之、黒川真道に送る、○和漢名詩鈔を読む、○夜、絵葉書を富田春山、富田順吉に送る、○和漢名詩鈔を読む、○「時代と教育」を読む、廿二日、午前、坂井金次より来状、○和漢名詩鈔及び「時代と教育」を読む、○今福忍来訪す、○葛岡敬雄より「講習員名簿」を送来る、○午后、絵葉書を石原即聞、鶴飼金三郎、藤本政介、齋藤一、齋藤壽七、松村正一、坂井金次、浦井鍠一郎、赤間富次郎、大田

黒作次郎、八木光貫に送る、○島田賢平来訪す、○和漢名詩鈔及び「時代と教育」を読む、○夜、日本政記を読む、○此日、高橋安親、安藤円秀、藤谷竟、東亜協会々員となる、○木下広次逝く、享年六十、

廿三日、午前、日本紀を読む、○研究、○村木維夫より来状、○勝水淳行より葉書来る、○午后、島田賢平来る、乃ち之をして談話を筆記せしむ、○日本書記、東洋歴史及び和漢名詩鈔を読む、○夜、日本政記を読む、○此日、過去三年間の成績を回思するに、左の諸点に於て著しき進歩あるを自認す、

(一) 衛生上 冷水浴を始め、疾病事故なし、

(二) 経済上 裏崖下に家屋四戸、奥鴨に三戸、計七戸建築、宇府地所を購入す、

(三) 家政治上 反駁を引き、オルガンを買ひ、ミシンを求め、姿見を置く、

(四) 修養上 節酒を實行し、業務に勉勵す、

(五) 事業上 東亜協会の事業を始めとし、事業上の発展著し、於書も式部あり、

(六) 研究上 講読書籍、学会出席、學術論文比較的多し、

然れども前途の益々遼遠なるを覚ゆ、

廿四日、午前、今福忍、浦谷熊吉、矢野太郎来訪す、○日本紀及び日本政記を読む、○絵葉書を西高辻信禔及び村木維夫に、葉書を送る、○文学士川村弘、東亜協会々員となる、○午后、和漢名詩鈔を読む、○「教界春秋」を草す、○文科大学の使者来る、○夜、「教界春秋」を印刷所に送る、○彙報を浦谷熊吉に送る、○吉田雪子来る、○此日、Prof. James 逝く、

廿五日、午前、「日韓文明の關係」国民新聞に出づ、○服部宇之吉より書状、土井林吉より絵葉書来る、○日本政記を読む、○稅務署より通知書来る、○国書刊行会より「山鹿語類」の第二と「近世文芸叢」の第二とを送る、○午后、哲学会の原稿を訂正す、○元良勇次郎を訪ふ、○書状を有馬祐政及び鈴木大拙に、絵葉書を土井林吉に送る、○夜、速記を訂正す、○Kraft-Ebing, Psychopathia Sexualis を読む、○此日、法学博士梅謙次郎、京城に殉す、享年五十一、○波野分婉、

廿六日、午前、「日韓文明の關係」国民新聞に出づ、○市村瓊次郎、木下正雄より来状、○書状を土井林吉及び木下正雄に送る、○葉書を白鳥庫吉、及び光明館に送る、○瀧精一、森良三郎来訪す、○彙報を浦谷熊吉に送る、○速記を訂正す、○縫子、成美宅に赴く、○午后、橋本義太郎来る、乃ち之をして談話を筆記せしむ、○博文館より「根本仏教」を送る、○夜、速記を訂正す、

廿七日、午前、鈴木貞太郎及び動物愛護会より来状、○書状を服部宇之吉に送る、○文科大学より使者来る、○速記を訂正す、○百目木智璉、黒川真道来訪す、○浦谷熊吉より使者来る、乃ち之に「教育と修養」を付与す、○午后、速記を訂正す、○佐藤金造来訪す、○彙報を浦谷熊吉に送る、○橋本義太郎より談話筆記を送る、○夜、哲学会速記の訂正を大島正徳に送る、

廿八日、午前、家族を拉して出発、九、○五新橋発の汽車にて鎌倉に赴き、光明館に投ず、○午后、飯島に遊び、別荘を観る、○夜、光明館に宿す、○此日、出雲風土記を読む、○春枝、腹痛を患ふ、

廿九日、午前、児輩を拉して外出、三橋旅館に昼食す、○午后、光明館を辞して、三橋旅館に移転す、○夜、春枝、稍々軽快、○此日、日韓併合條約発表、

三十日、午前、縫子、児女を拉して大仏に参す、○午后、家族を拉して絵の島に遊ぶ、○夜、八、○四出發、○二、○頃帰宅、○此日、「東亜の光」(五の九)成る、

不在中の訪問者は、磯邊弥一郎、岩田僊太郎、天生目一治、武内紫明、補永茂助、後藤朝太郎、葉山万次郎、豊田臻、○谷垣邦義、三沢糾、濱田健次郎、高帛泰、小野正尊等より來状、○吉田熊次、堀謙徳、大島正徳等より葉書来る、○鈴木大拙より

羊羹を送来る、○平田元吉より「ハムレット研究」を送来る、
卅一日、午前、葉山万次郎、樋口秀雄來訪す、○小林一郎より來状、
○午后、新聞を読み、休養す、○夜、石川利之より來状、○休養、
○七月以来の到來物如左、

到來物

- 日光羊羹 鈴木大拙 菓子
- 菓子壺箱 浅倉屋 飲料オレンジ半打 磯辺 葉山万次郎
- 人形と餅 姉崎 菓子 友枝高彦
- 菓子 佐々木信綱 豆銀糖 藤井玉枝
- 砂糖 野田麟太郎 商品切手 磯江潤
- 菓子一箱 植田弥吉 団扇と菓子 齋藤庸一郎
- 茶壺缶 原秀四郎 ハンケチ壺打 齋藤儀八
- 吉田熊次 鷄卵索麵 井上健兒

袋物 富田順吉 敷島 黒川真道

菓子 森良三郎 文房具壺箱 同文館

砂糖壺樽 清水満之助 ハンケチ二打 六盟館

ビール壺打 隆文館 サンダー壺打 村松

鯉節 村田五郎 菓物壺籠 北村教嚴

浴衣壺反 婦人画報社 切手とハンケチ 井上成美

鷄卵壺箱 三省堂 サイダー壺打 弘道館

贈物 林平次郎 菓子 笹川

タヲル 石川栄司 菓子 法貴慶次郎

鯉節 堀田相爾 サイダー半打 遠藤隆吉

ビール半打及半襟 伊澤 ビスケキツト 文学社

ビール一打及浴衣壺反 齋藤製作所 シヤツ一ツ 富山房

葡萄酒 鳥居君子 ビール二本 伊藤六藏

ハンケチ一箱 芝辻正晴 花瓶一ツ 予章会

ハンケチ一打 岩田僊太郎 菓子 目黒甚七

鱈子 小杉熙 絵葉書 間端吾

茶器 赤井直好

九月
一日、午前、深作安文より絵葉書来る、○岩橋遵成、相馬由也、浦谷熊吉、後藤朝太郎來訪す、○午后、書状を元良勇次郎、坪井九馬三、小野正尊に、葉書を鈴木貞太郎、磯辺弥一郎、濱田健次郎、及び帝国学士院に送る、○「東亜の光」(五の九)を磯辺弥一郎に送る、○岩田僊太郎來訪す、○夜、和漢名詩鈔を読む、○此日、「東

垂の光」是れより独立経営を為す事となる、○「聖人論」東亜の光に出づ、○李王冊封式行はる、

二日、午前、木村善太郎より来状、○日本政記を読む、○原田稔甫来訪す、○午后、百目木智璉、及び読売新聞記者某来訪す、○堀謙徳より原稿を送来る、○古風土記を読む、○英爾を東海銀行に遣はす、○夜、幣原坦の送別会に学士会事務所に赴く、○有馬祐政より来状、

三日、午前、中谷徳太郎、藤塚鄰、目黒甚七来訪す、○筆記を訂正す、○午后、梅謙次郎の葬式に護国寺に赴く、森林太郎、石黒忠恵、和田垣謙三等と会見す、○沼波武夫来訪す、○筆記の訂正を楠山正雄に送る、○「退溪先生行実」を読む、○夜、藤田季莊来訪す、○此日、香典料を田中収吉に送る、

四日、午前、吉田豊吉より絵葉書来る、○田邊元、豊田臻、松浦一、埜口徳太郎、三島復、安田勝蔵来訪す、○「東亜の光」(五の九)を土井林吉に送る、○午后、木川修蔵来る、乃ち談話を筆記せしむ、○原平吉、幣原坦来訪す、○西田幾多郎より来状、○「時代と教育」の序を草す、○日本政記及び和漢名詩鈔を読む、○夜、「時代と教育」の序を警醒社に送る、○「東亜の光」(五の九)を徳川達孝及び沼田頼輔に送る、

五日、午前、浦谷熊吉、紀平正美、高見勝、宇田川銀蔵、山田延弥、富塚恂来訪す、○午后、中谷徳太郎来る、乃ち談話を筆記せしむ、○小谷重来訪す、○山崎兼子の「万有可解人事可悟」を読む、○日本政記及び和漢名詩鈔を読む、○文部省より検定試験答案を送

来る、○アムールスキー詩集を送来る、○夜、葛岡敬雄、沼波武夫来訪す、○堀謙徳の兎鱈噺を読む、○日本政記を読む、○外崎覚より「永懷録」を送来る、○此日、堀謙徳より原稿を送来る、○文科大学より使者来る、

六日、午前、枝元長夫より来状、○「長野県人と雄大なる精神」信濃毎日新聞に出づ、○水島耕一郎、森良三郎来訪す、○竹越與三郎より書状と南国記を送来る、○「新編倫理」六拾部の奥附を金港堂に付与す、○南国記及び日本政記を読む、○同文館より「哲学辞書」第三冊を送来る、○午后、南国記、国史眼及び日本政記を読む、○中谷徳太郎より談話筆記を送来る、○夜、原秀四郎及び同文館より来状、○検定試験の答案を読む、

七日、午前、浦谷熊吉、宇野哲人来訪す、○磯部弥一郎、東亜協会々員となる、○百目木智璉より談話速記を送来る、○水島耕一郎より「翁問答」を送来る、○午后、速記の訂正を百目木智璉に送る、○筆記の訂正を中谷徳太郎に送る、○正勝、微恙あり、渡辺真為に来診す、○文科大学より来状、○服部北溟より「翁問答」と書状とを送来る、○史学会の速記を訂正す、○夜、興学会に学士会事務所に赴く、○大江文城及び民友社より来状、○大井徹翁より絵葉書来る、○史学会の速記を訂正す、○大雨、

八日、午前、島本愛之助より来状、○史学会の速記を訂正す、○「朝鮮の儒教々育」読売新聞に出づ、○研究、○午后、校正を民友社に送る、○枝元長夫来る、乃ち談話を筆記せしむ、○小野田亮正来訪す、○米山健造より来状、○史学会の速記を訂正す、○国史

眼を読む、○夜、「日韓文明の關係」武徳誌及び中外日報に出づ、
○国史眼及び姓氏録を読む、○此日、「教育と修養」及び「東亜の光」
（五の九）を鈴木光愛に送る、

九日、午前、浦谷熊吉、安田勝藏、後藤朝太郎来訪す、○山路愛山
の「日本人種論」を読む、○精美堂より来状、○水島耕一郎より
葉書来る、○午后、民友社より校正来る、乃ち之を民友社に送る、
○枝元長夫より筆記を送来る、○筆記の訂正を枝元長夫に送る、
○聚精堂よりビール壺打を送来る、○「日本人種論」を読了る、
○堀田相爾来訪す、○「学生と文芸」学生文芸に出で、「日韓文
明の關係」武士道及び中外日報に出づ、○夜、杉山直喜来る、乃
ち之をして談話を筆記せしむ、

十日、午前、紀平正美、萩野由之及び小石川郵便局より来状、○民
友社より校正来る、○校正を民友社に送る、○浦谷熊吉、大津康、
坂本嘉治馬来訪す、○午后、安田勝藏来る、乃ち談話を速記せし
む、○原田理一より来状、○国史眼及び和漢名詩鈔を読む、○帝
国学士院より印刷物来る、○夜、吉田夫妻来談す、○検定試験の
答案を読む、○内外教育評論社より来状、

十一日、午前、深田順次郎、福来友吉、原秀四郎より来状、○貞金
近松、武内紫明、河合秋平来訪す、○日本青年中学会々長たるこ
とを諾す、○午后、書状を井上健児、井芹経平及び服部北溟に送
る、○「古学哲学」壹百部の奥附（大市の分）を富山房に付与す、
○「支那古代の研究」漢学に出づ、○勝水淳行、葛岡敬雄、友枝
高彦来訪す、○杉山直喜より速を送来る、○夜、高見勝及び同文

館より来状、○研究、

十二日、午前、講義に大学に赴く、○三上参次を史料編纂所に訪ふ、
○久世庸夫及び黒龍会本部より来状、○午后、浦谷熊吉、深作安
文、姉崎増子来訪す、○小野田亮正来る、乃ち談話を筆記せしむ、
○速記を訂正す、○「翁問答」を櫻井熊太郎に送る、○夜、速記
を訂正す、

十三日、午前、「異人種との結婚」毎日電報に出づ、○速記を訂正す、
○吉田雪子来談す、○丙午出版社より「死後の生活」及び「高僧
名詩新釈」を送来る、○午后、浦谷熊吉、木村善太郎、相馬由也
来訪す、○小澤錦十郎より来状、○「唯物論と唯心論とに対する
実在論の哲学的価値」哲学雑誌に出づ、○哲学辞書の菅公を草す、
○八円の為換を久世庸夫に送る、○小林一郎内より来状、○「日
韓文明の關係」経済に出づ、○「教科書会」より書類来る、○夜、
葛岡敬雄来訪す、○菅公を草す、○下井小太郎より来状、○此日、
子爵曾根荒助逝く、

十四日、午前、学習院に赴く、○久世庸夫より来状、○不在中谷慶
祐、反物を携へて来訪す、○午后、千里眼婦人実験の為に大橋新
太郎宅に赴く、薄井秀一、鎌田敬四郎来訪す、○加藤玄智、来訪
す、○夜、矢野淡爾来訪す、乃ち談話を筆記せしむ、○橋本儀太
郎来訪す、○杉山直喜来る、乃ち談話を筆記せしむ、○速記の訂
正を榎本勝多に送る、○此日、「朝鮮の儒教教育」河北新報に出づ、
○三島復、「余姚学苑」下巻を返来る、

十五日、午前、森良三郎来訪す、○秋山悟庵より来状、○尸子を読む、

○午后、講義に大学に赴く、○宮坂詰宗と会見す、○不在中高見勝、宇田川銀藏来訪す、○芝辻正晴、浦谷熊吉来訪す、○佐々木吉三郎、沼田頼輔、東亜教会々員となる、○夜、菅公を草して之を同文館に送る、○小野田亮正より来状、○此日、「朝鮮の教育」やまと新聞に出づ、○市村瓊次郎より詩を送来る、

十六日、午前、原平吉、大倉広三郎、平塚唯鳩来訪す、○「教育と修養」二百部の奥附を弘道館に付与す、○「朝鮮の教育」やまと新聞に出づ、○土井林吉より来状、○杉山直喜より速記を送来る、○午后、武内紫明、青木宗太郎来訪す、○速記を訂正す、○金港堂の使者、速記を携来る、○大日本青年中学会より契約書を送来る、○「如何にして朝鮮を教化すべきか」中外日報に出づ、○英爾を浦谷宅に遣はす、○夜、大日本青年中学会の速記者来る、乃ち談話を速記せしむ、

十七日、午前、淡路町関根屋に赴き、千里眼婦人御船千鶴子の実験をなす、好成绩あり、○浦谷熊吉、姉崎袖子来訪す、○午后、堀謙徳、吉田虚白、神長倉儀八、薄井秀一、井上勝好、橋本儀太郎来訪す、○井上健児より来状、○「如何にして朝鮮を教化すべきか」中外日報に出づ、○夜、金港堂の速記を訂正す、○英爾を関根屋に遣はし、「教育と修養」を井芹経平に送る、○日本女子大学校より来状、○此日、文部省より検定試験答案を送来る、○堀謙徳より葉書来る、

十八日、午前、齋藤木、三島復、浦谷熊吉、小川竹男、紀平正美、辻村鑑、秋山悟庵、岩橋遵成、六盟館員等来訪す、○速記の訂正

を金港堂の使者に付与す、○大日本青年中学会より速記を送来る、○成功社員榎本恒太郎来る、乃ち談話を筆記せしむ、○午后、「師範修身」二百部の奥附を金港堂に付与す、○速記の訂正を大日本青年中学会に送る、○大島正徳来訪す、○夜、研究、○此頃、千里眼婦人に関する記事、各新聞に掲載せらる、

十九日、午前、講義に大学に赴く、○渡辺海旭、東亜協会々員となる、○午后、秋山悟庵来る、乃ち談話を筆記せしむ、○小林儀則及び文学社員「実業修身教科書」草稿を携来る、○浦谷熊吉、水島耕一郎、後藤朝太郎、葛岡敬雄、今福忍来訪す、○徳川達孝、豊田臻、原松四郎、堀江耕造、土居光知、荒瀬揆一、小田倉啓、内藤武彦、宇井伯壽、馬奈木文助、荒木良蔵、佐藤莊一郎、池田秀雄、三上勝、以上拾四名、東亜協会々員となる、○夜、青木宗太郎より来状、○原稿を浦谷熊吉に送る、○葉書を関如來に送る、

二十日、午前、谷慶祐来訪す、○谷慶祐、東亜協会々員となる、○尸子を読む、○有賀長雄より書状とフェノロサの写真とを送来る、○秋山悟庵より筆記を送来る、○筆記の訂正を浦谷熊吉に送る、○午后、和漢名詩鈔及び尸子を読む、○平塚唯鳩、榊田秀乘、唐川徹、吉田豊吉来訪す、○荒浪市平をして談話を筆記せしむ、○唐川徹、東亜協会々員となる、○史学会の速記を齋藤勵に送る、○教員検定委員会より来状、○夜、葛岡敬雄来談す、○「支那古代の研究」の速記を訂正す、

廿一日、午前、帝国学士院及び広文堂より来状、○学習院に赴く、○午后、教授会に大学に赴く、○夜、浦谷熊吉より来状、○書状

を浦谷熊吉に送る、○速記を訂正す、○尸子を読む、○シヨッペンハウエル五十周年

廿二日、午前、堀謙徳より来状、○速記を訂正す、○浦谷熊吉、後藤朝太郎来訪す、○午后、文科大学より来状、○講義に大学に赴く、○コーツと会見す、○日本弘道会より速記を送来る、○速記を訂正す、○「支那古代の研究」の訂正を後藤朝太郎に付与す、○夜、吉田夫妻来談す、○大村桂巖、東亜協会々員となる、○速記の訂正を平塚唯鳩に送る、○榎本恒太郎より書状及び談話筆記を送来る、○此日、「教育問題と就職難」読売新聞に出づ、○International Union of Ethical Societiesより書類来る、

廿三日、午前、「教育問題と就職難」読売新聞に出づ、○豊田臻来訪す、○葉書を紀平正美、今福忍及び浅倉屋に送る、○「東亜の光」口絵を活版所に送る、○成功の筆記を訂正し、之を榎本恒太郎に送る、○今福忍より来状、○今福忍より「論理学要義」及び「論理学教科書」を送来る、○文明協会より「近世欧洲文化史論」を送来る、○午后、原平吉、樋口秀雄妻来訪す、○三宅康寧より来状、○縫子、すみれ会に赴く、○検定試験答案を読む、○葉書を青木宗太郎及び堀謙徳に送る、○ムルドックより来状、○夜、尾上八郎来訪す、○松村義太郎、大里猪熊の紹介状を携来る、○検定試験答案を読む、○枝元長夫より来状、

廿四日、秋季皇霊祭、午前、黒板勝美、東亜協会々員となる、○紀平正美、深田鶴松来訪す、○原秀四郎より来状、○検定試験答案を読む、○浦谷熊吉来談す、○長谷川篤より書状と原稿とを送来

る、○午后、「教界春秋」を草す、○検定試験答案を読む、○辻本卯蔵来訪す、○「教界春秋」を草し、之を活版所に送る、

廿五日、午前、武内紫明、補永茂助、大島正徳、山本愿太、松村義太郎、秋山悟庵、今福忍、若木広良来訪す、○弘道館より使者来る、○男爵三條公輝及び佐久間正太郎、東亜協会々員となる、○印刷会社より校正を送来る、○午后、校正を印刷会社に送る、○井上波野、小児を懐き、母と共に来訪す、○齋藤木、槐樹壹株を送来る、○John William Draper. History of the Conflict between Religion and Scienceを読む、○夜、引続きDraperを読む、

廿六日、午前、愛知教育会及び小尾範治より来状、○講義に大学に赴く、○不在中金子満壽来訪す、○午后、所得税四拾貳円参拾五銭、府税市区費八円〇式銭を区役所に納む、○毎日電報社より「カステイラ」壹箱を送来る、○加藤玄智より書状及び林檎壹籠を送来る、○名古屋の速記を訂正す、○浦谷熊吉来談す、○小石川区長須崎緝作より来状、○夜、名古屋の速記を訂正す、○此日、帝国大学より「大日本古文書」、孔子祭典会より「先哲遺芳」を送来る、○酒生慧眼逝く、享年四十六、

廿七日、午前、名古屋の速記を訂正す、○小松原文相より来状、乃ち之に返翰を送る、○若松緑来訪す、○午后、速記を愛知教育会に送る、○木村秀雄、原秀四郎より来状、○葉書を齋藤木、田部井柳太郎、枝元長夫、加藤玄智に送る、○哲学会の速記を訂正す、○金子満壽、芝辻正晴来訪す、○夜、引続き速記を訂正す、○藤田豊八より「慧超伝箋釈」を送来る、○教科書会より書類を送来る、

廿八日、午前、学習院に赴く、○午后、齋藤木より来状、○深作安文、森良三郎来訪す、○巢鴨の地租壹円五拾七銭五厘を森良三郎に付与す、○「青年中学会」より使者来る、○夜、心理学会に赴く、○中央社の矢野生より写真を送来る、○此日、Walter Deningより「和文英訳軌範」を送来る、

廿九日、午前、尸子を読む、○金葉堂高木某来訪す、○縫子、吉田宅に赴く、○午后、講義に大学に赴く、○コートと会見す、○浦谷熊吉来訪す、○文科大学及び辻本卯藏より来状、○文学士栗原武一郎、東亜協会々員となる、○夜、小松原文相の招燕に永田町官邸に赴く、○十一時頃帰宅、

三十日、午前、哲学会の速記を訂正す、○「教育と就職難」神戸又新報に出づ、○「東亜の光」(五の十)成る、部数は八月は三二五〇、九月は三三〇〇、十月は三四五〇、○澤柳政太郎より印刷物を送来る、○午后、在ハイデルベルヒ朝永三十郎より絵葉書来る、○平塚唯鳩、御礼の為に来る、○引続き速記を訂正す、○夜、哲学会に大学に赴く、○不在中英秀環来訪す、○教科会より書類来る、○此日、「宗教進歩論」中外日報に出づ、

十月

一日、午前、浦谷熊吉来訪す、○十時十分両国出発、千葉に赴く、○午后一時頃医学専門学校に赴き、「身近なる修養と崇高なる道徳」を演述す、○七時頃帰宅、○不在中三浦頌徳会より電報来る、○桐原貞吉来訪す、○国書刊行会より「山鹿語類」第三及び「近世文芸叢書」第三を送来る、○夜、吉田雪子来談す、○大洲藤樹

会事務所より来状、○此日、「宗教進歩論」中外日報に出づ、○大和田建樹、逝く、享年五十四、

二日、午前、齋藤木、英秀環、飯島忠夫、豊原清作、遠藤夏子及び文章世界記者白石某来訪す、○口中の痛あり、乃ち緑川に赴く、○午后、松本洪及び遠賀郡学生某来訪す、○亀谷聖馨より来状、○夜、与謝野晶子より来状、

三日、午前、講義に大学に赴く、○不在中安井正太郎来訪す、○午后、婦人画報社より御礼の為に来る、○文科大学、禅道会より来状、○在清国樋口秀雄より絵葉書来る、○書状を山内佐太郎及び酒生正俊に送る、○前川文栄閣来る、○文章世界白石某来る、乃ち談話を筆記せしむ、○緑川に赴く、○夜、書状を文科大学及び与謝野晶子に送る、○丘浅次郎より来状、○書状を山川健次郎及び葉書を補永茂助等に送る、○此日、口中の痛、稍々軽快、

四日、午前、縫子吐血す、渡辺真来診す、○浦谷熊吉、森良三郎来訪す、○電報を三好成に送る、○午后、原平吉来訪す、○白石某より筆記を送来る、○筆記の訂正を白石某に送る、○宮崎より葡萄菴籠を送来る、○文部省より来状、○哲学会速記の訂正を葛岡敬雄に付与す、○検定試験の答案を読む、○緑川に赴く、○桑原隲藏より松茸を送来る、○夜、書状を三好成、村越銃之輔、葉書を下井小太郎、三好成に送る、

五日、午前、学習院に赴く、○前川文栄閣より「釈迦牟尼伝」二部を送来る、○「中学修身」八拾部の奥附を文学社に付与す、○午后、三浦梅園頌徳会より電報来る、○英爾を三井銀行に遣はす、○教

授会に大学に赴く、○麟祥院に赴き、「仏教所感」を演述す、○教科書会、帝国学士院及び田中義能より来状、○田中義能より「神道本義」を送来る、○「孔子及孔門の諸弟子に就いて」東洋学芸雑誌に出づ、○夜、書状を遠藤隆吉に送る、○「長崎時代の余は即ち今日の余也」無名通信出世号に出づ、○此頃「結婚を呪ひ家庭を破壊する危険なる思想を排斥せよ」婦人画報に出づ、

六日、午前、勉強、○何人よりか梨子壺籠及びベルムット壺缶を送来る、○安井正太郎来訪す、○午后、講義に大学に赴く、○不在中馬上孝太郎外一名来訪す、○浦谷熊吉来訪す、○夜、馬上孝太郎来訪す、○検定試験の答案を読む、○此日、葡萄牙国革命あり、昨日共和政治布告せらるるとの報あり、「頁下部に「葡国変乱其後」の新聞記事切抜貼付」○縫子、軽快、

七日、午前、枝元長夫より来状、○伊藤吉之助、堀田相爾来訪す、○検定試験の答案を読む、○古事類苑（動物部）来る、○午后、電話使用料拾六円五拾銭を郵便局に納む、○電報を大分県三好成に送る、○検定試験の答案を読む、○深作安文、吉田熊次、浦谷ふみ来訪す、○三好成より電報来る、○夜、検定試験の答案を読む、○文科大学より追試験の答案来る、○此日、葡萄牙国は、ブラガを大統領として共和政体の設立を宣言せりとの報あり、八日、午前、葉書を杉山直喜、枝元長夫、秋山悟庵、大島正徳、桑原隲蔵に送る、○検定試験の答案を読む、○午后、答案を讀了る、○点数会議に山上御殿に赴く、○緑川に赴く、○不在中江部淳夫来訪す、○桜蔭会の速記を訂正す、○三好成より来状、○夜、日

本学会に大学に赴く、○富田春山及び菊池敏彦より来状、

九日、午前、今立裕、秋山悟庵、齋藤木、枝元長夫、長谷川福平、英秀環、龍谿觀興来訪す、○午后、馬上孝太郎、内堀維文の書状を携来る、○石川栄司来訪す、○書状を遠藤隆吉に送る、○桜蔭会の速記を訂正す、○花岳寺より来状、○富田春山より紫金苔を送来る、是れ母の壺周忌に当るが為めなり、○夜、Ueberweg, Geschichte der Philosophieを読む、○此日、武内紫明をして談話を筆記せしむ、

十日、午前、検定試験の成績を文部省に送る、○講義に大学に赴く、○緑川に赴く、○午后、安井正太郎来訪す、乃ち談話を筆記せしむ、○岩橋遵成、浦谷熊吉来訪す、○山内佐太郎、東亜協会々員となる、○桜蔭会の速記を訂正す、○文科大学より来状、○夜、引続き速記を訂正す、○此日、縫子、雪子を拉して千葉病院に赴く、○姉崎正治よりシヨッペンハウエルの翻譯壺冊を送来る、

十一日、午前、桜蔭会の速記を訂正す、○速記の訂正を桜蔭会の使者に付与す、○電報を大洲藤樹会に送る、○三浦梅園頌徳会より電報来る、○今書を読む、○森良三郎来る、○丸善洋書店より来状、○午后、書状を遠藤隆吉に送る、○丹羽瀧男来る、乃ち談話を筆記せしむ、○久保田啓及び小松原文相より来状、○教科書会より書類来る、○「実業修身」を訂正す、○安井正太郎、談話筆記を携来る、○播磨龍城より「性相学」を送来る、○夜、「実業修身」を訂正す、○「時代思想」に関する談話筆記を訂正す、

十二日、午前、学習院に赴く、○同文館より「日本教育文庫」女訓

篇を送来る、○午后、教授会に大学に赴く、○夜、帝国学士院に赴く、○不在中浦谷熊吉、原平吉来訪す、○文部省図書課より来状、十三日、午前、商子及び管子を読む、○田中収吉より茶を送来る、○ Gordon より来状、○小石川郵便局より来状、○午后、講義に大学に赴く、○平塚唯鳩、葛岡敬雄、松浦厚、小松原文相及び文科大学より来状、○「中学修身」百五拾部の奥附を文学社に付与す、○浦谷熊吉来訪す、○日本弘道会副会長子爵松平親信、「副会」朱筆、東亜協会々員となる、○「日韓併合と今後の教育」教育界に出づ、○「達磨の活禪」中外日報に出づ、○夜、書状を認む、○此日、鮫島大将逝く、

十四日、午前、書状をゴールドン夫人に送る、○試験の問題を松浦鎮次郎に送る、○管子を読む、○妹尾康夫より来状、○午后、同文館より速記を送来る、○速記を訂正す、○音楽学校より案内状来る、○原平吉来訪す、○夜、「達磨の活禪」中外日報に出づ、○速記を訂正し、之を同文館に送る、○博文館より来状、○此日、談話筆記の訂正を博文館に送る、○縫子、学校の父兄懇話会及び吉田宅に赴く、○東亜協会々員を調査するに、特別会員総計六百六拾人、賛助員五拾八人、合計七百拾九人、外に通常会員数拾人、○「東亜の光」発行部数は八月三二五〇、九月三三〇〇、十月三四五〇、

十五日、午前、堀謙徳の原稿を読む、○浦谷熊吉来訪す、○歯痛あり、乃ち医科大学に赴き、石原久をして診察せしむ、○午后、藤田忍来る、乃ち談話を筆記せしむ、○堀謙徳の原稿を訂正す、○夜、

地学協会に赴き、鳥居龍蔵の講演を聴く、○此日、「達磨の活禪」中外日報に、「日韓併合と今後の教育」教育界に、「蕃山先生の学説」蕃山先生二百二十年祭祀事に、「現代青年に与ふべき主義若くは主張」文章世界に出づ、○教科書会より書類来る、○河内艦の進水式を行ふ、

十六日、午前、森良三郎、江部淳夫、春山育次郎、秋山悟庵、東讓三郎来訪す、○「教育と修養」参百部の奥附を弘道館に付与す、○堀謙徳の原稿を訂正す、○デニングより来状、○八木光貫より絵葉書来る、○禅道会より速記を送来る、○午后、浦谷熊吉、岩田僊太郎来訪す、○辻村鑑、東亜協会々員となる、○原稿を訂正す、○林政穂より来状、○夜、杉山直喜来る、乃ち談話を速記せしむ、○関如来、清原猛雄より来状、○文学社より「新修身書」二巻を送来る、○此日、在倫敦市長谷川天溪より葉書来る、○「朝鮮の德育」弘道に出づ、○岩田僊太郎より来状、○藤田忍より原稿を送来る、

十七日、午前、藤田忍より原稿を送来る、乃ち訂正して之を送る、○松浦伯爵より絵葉書来る、○秋「山」悟庵より来状、○序文を秋山悟庵に送る、○「唯物論と唯心論」に対する実在論の哲学的価値」哲学雑誌に出づ、○深井鑑一郎、御礼の為に煙草を携来る、○堀謙徳の原稿を読む、○午后、堀謙徳来る、乃ち之に原稿を付与す、○河瀬秀治来訪す、○彙報を作る、○清子、音楽学校に、正勝、益之進、美術展覧会に赴く、○「仏教の弊害及び改良」中外日報に出づ、○夜、杉山直喜より速記を送来る、○速記を訂正

す、○此日、西田政造より松茸を送来る、

十八日、午前、井上成美より絵葉書来る、○書状を小松原文相に送る、○浦谷熊吉来訪す、○午后、ゴルドン夫人の招燕に赤坂に赴く、○不在中小尾範治、高橋里美来訪す、○文科大学及び杉山金市より来状、○松浦伯爵より絵葉書来る、○夜、管子及び商子を読む、○幣原坦より来状、○書状を浦谷熊吉に送る、

十九日、午前、小尾範治、高橋里美来訪す、○医科大学に赴く、○小松原文相より来状、○「支那古代の研究」漢学に出づ、○商子を読む、○午后、教授会に赴く、○哲学字彙の会に赴く、○渡部董之介より来状、○中村勝磨より「彦根山由来記」を送来る、○「仏教の弊害及び改良」中外日報に出づ、○夜、研究、

二十日、午前、医科大学に赴き、尋いで文部省の美術展覧会に上野に赴く、○井上健児より来状、○森良三郎来る、○午后、「朱子哲学」五拾部の奥附を富山房に付与す、○講義に大学に赴く、○文部省に赴く、○文科大学より来状、○英爾を丸善に遣はし、James, The Meaning of Truthを買求めしむ、○浦谷熊吉来訪す、○夜、新聞雑誌類を読む、○此日、寺内陸相帰京、

廿一日、午前、下井小太郎より来状、○文部省図書課より使者来る、○William James, The Meaning of Truthを読む、○書状を大日本青年中学会に送る、○桑木巖翼より「歴史哲学の問題」を送来る、○午后、内堀維文より電報来る、○電報を内堀維文に送る、○James, The Meaning of Truthを読む、○大洲藤樹会より記念品を送来る、○「大日本統蔵経」二套を受取る、○夜、英秀環及び

帝国学士院より来状、○James, The Meaning of Truthを読む、

廿二日、午前、医科大学に赴く、○十時十分新橋発の汽車にて鎌倉に赴く、○午后一時半より二時半迄二宮尊徳の事に就いて師範学校に演述す、聴衆約一千名、内堀維文、三宅直温、矢田勝二、佐藤善治郎、白坂栄彦等と会见す、○四時半過鎌倉を出発す、○夜、七時頃帰宅、○不在中三好成より来状、○勉強、

廿三日、午前、武内紫明、羽山好作、白田蒲城、秋山悟庵、岩崎歌郎、坂本嘉治馬来訪す、○遠藤隆吉より書状と三浦梅園頌徳会紀念品とを送来る、○載洵貝勒入京、○午后、哲学会に赴き、「シヨッペンハウエルとゼームス」を演述す、聴衆約四百名、○不在中原平吉来訪す、○澤田藤十、鎌倉の師範学校より御礼の為に来る、○齋藤壽七より来状、○「乱世最後の英雄豊太閤」成功の豊太閤号に出づ、○若木貞一より絵葉書来る、○夜、「師範修身」二百部の奥附を金港堂に付与す、○休養、「頁下部に「King of Siam」の新聞記事切抜貼付」

廿四日、午前、講義に大学に赴く、○医科大学に赴く、○不在中東敬治の使者来る、○「陽明哲学」五拾部の奥附を富山房に付与す、○渡辺誠吾より来状、○在北京樋口秀雄より絵葉書来る、○午后、浦谷熊吉来訪す、○英爾を大学に遣はす、○武内紫明来る、乃ち談話を筆記せしむ、○教科書会及び女子大学並にフィルハルモニール会より来状、○夜、文科大学及び金港堂より来状、○書状を金港堂に送る、○「東亜の光」口絵を印刷所に送る、○枝元長夫より来状、○地震二回、○山田美妙逝く、享年四十三、

廿五日、午前、「教界春秋」を草す、○江木千之来訪す、○縫子、成美宅に赴く、○午后、文科大学の使者、宮内省の招待状を携来る、○秋山悟庵来る、乃ち談話を筆記せしむ、○青木正、川島友三来訪す、○多田鍊雄来る、乃ち談話を筆記せしむ、○「教界春秋」を草し了りて之を活版所に送る、○文部省図書課より来状、○夜、渡辺華山の伝を読む、○商子及び管子を読む、

廿六日、午前、内堀維文、秋山悟庵、及び弘道館より来状、○「シ、ヨー、ペン、ハウエルとジ、エームス」読売新聞に出づ、○学習院に赴く、○午后、教授会に大学に赴く、○木村善太郎、東亜協会々員となる、○教員検定委員会より来状、○富田順吉より来状、○夜、同文館より校正来る、

廿七日、午前、教科書会より来状、○勝水淳行、高田早苗来訪す、○医科大学に赴く、○商子を読る、○管子を読む、○「シ、ヨー、ペン、ハウエルとジ、エームス」引続いて読売新聞に出づ、○午后、講義に大学に赴く、○不在中下中芳岳、小中村栄子来訪す、○小村外相より招待状来る、○小谷重、「再訂女子修身」を携来る、○管子を読む、○夜、葛岡太郎、全敬雄来訪す、○今書を読む、廿八日、午前、浦谷熊吉、多田鍊雄来訪す、○追試験の為に大学に赴く、○大学図書館に赴く、○貞金近松、東亜協会々員となる、○午后、府税、市税、区費金拾貳円六拾五銭を区役所に納む、○英爾を大学に遣はし、高橋教授の為に貳円、飯島教授の為に参円を寄附す、○平塚唯鳩及び山田吉郎より来状、○子爵本多康虎、東亜協会々員となる、○塚原政次より絵葉書来る、○夜、「華山

遺墨帖」の序を作る、○「実業之日本社」より来状、○此日、「シ、ヨー、ペン、ハウエルとゼームス」引続き読売新聞に出づ、

廿九日、午前、医科大学に赴く、○福来友吉に電車中に逢ふ、○中朝事實を読む、○縫子、元良宅に赴く、○「シ、ヨー、ペン、ハウエルとジ、エームス」引続き読売新聞に出づ、○午后、浦谷熊吉来談す、○原平吉来る、乃ち之に「華山遺墨帖」の序を付与す、○深作安文の「実業修身」を訂正す、○縫子、清子及び春枝、上野公園に赴き、美術展覧会を覽る、○夜、海老名弾正、留岡幸助、中村郁一より来状、○文学社の「実業修身」を訂正す、○校正を同文館に送る、

三十日、午前、東敬治、下中芳岳、天生目一治、堀田相尔、小中村栄子、太田清三郎来訪す、○「実業修身」の原稿を文学社に付与す、○天生目一治、東亜協会々員となる、○暁星学校より来状、○午后、「東亜の光」(五の十二)成る、発行部数三六〇〇、○「東亜の光」を三浦周行、桑原隲蔵、江尻庸一郎、内堀維文、三宅直温に送る、○浦谷熊吉、森良三郎、木村泰賢来訪す、○金澤庄三郎、東亜協会々員となる、○大日本青年中学会より使者来る、○「漢籍国字解全書」第九巻を送来る、○「仏教の特徴」新仏教に出づ、○夜、大江文城より来状、○研究、

三十一日、午前、講義に大学に赴く、○医科大学に赴く、「哲学上より観たる二宮翁」横濱貿易新報に出づ、○午后、山口貞孝、佐々木信綱、多田鍊雄、中谷徳太郎来訪す、○在布哇島新館東三郎及び International Moral Education Congress より来状、○弘道館

より使者来る、○「日本宗教の刷新」中外日報に出づ、○夜、管子を読む、

十一月

一日、午前、高瀬武次郎より「支那哲学史」を、文明協会より「産業社会之進化」及び「仏国人之仏国」を送来る、○平田東助より来状、○浦谷熊吉、大島良策来訪す、○深田康算、東亜協会々員となる、○管子を読む、○午后、狩野芳崖遺墨展覧会上野公園に赴く、○曾田文甫、下中芳岳、黒川真道、本多辰次郎及び Heumann Hoffmann 来訪す、○教科書会より書類来る、○「日本宗教の刷新」中外日報に出づ、○夜、「女大研究」の序を弘道館に送る、○多田鉄雄、談話筆記を携来る、乃ち訂正して之を付与す、○「日本人種の起原に関する考證」史学雑誌に出づ、○内堀維文より来状、

二日、午前、学習院に赴く、○下中芳岳より筆記を送来る、○午后、医科大学に赴く、○哲学字彙の会に莅む、○葛岡敬雄、紀平正美、池田直来訪す、○小中村清名より来状、○「日本宗教の刷新」中外日報に出づ、○教科書会より書類来る、○夜、筆記の訂正を下中芳岳に送る、○此頃、「現代思想の傾向に就いて」太陽に出づ、三日、午前、「天長節と国民教育」読売新聞に、「東京二週年所感」東京に出づ、○竹原久之助、吉田静致の紹介状を携来る、○天長節祝宴に宮中に赴く、○午后、浦谷熊吉、手塚光貴来訪す、○文学士内藤武彦（史学）及び文学士村島靖雄（史学）東亜協会々員となる、○管子を読む、○「時代の宗教観」遼東新報に出づ、○

夜、深作安文の「実業修身」を訂正す、○「東亜の光」を松山直藏、高田早苗、小田切良太郎、依田喜一郎に送る、

四日、午前、三宅直温より来状、○James, The Varieties of religious Experience を読む、○大河内郁太郎来訪す、以無紹介状故不遇、○「女子修身」六百部の奥附を金港堂に付与す、○在米国シカゴ市友枝高彦より絵葉書来る、○午后、乃木希典を赤十字病院に訪ひ、七絶一首を贈る、云く、戦後取刀閑養病。太平無復捲波瀾。華陀自有回春術。秋晚何憂斜照寒。○堀田相爾来訪す、○夜、伊藤吉之助来訪す、○赤松入道円心の兵法雑誌を読む、○葛岡敬雄より来状、

五日、午前、赤松円心の兵法雑誌を読む、○深作安文の「実業修身」を訂正す、○医科大学に赴く、○新約克大学総長 Henry Mitchell Macracken の歓迎会に大学山上御殿に赴く、○午后、三時頃帰宅、○不在中半田一景来訪す、○深作安文の「実業修身」を訂正す、○夜、大平得三元良みさをの結婚の披露に上野精養軒に赴く、○大谷嘉兵衛、大江文城、嘉納治五郎及び帝国学士院より来状、

六日、午前、弘道館より校正来る、○校正を弘道館に送る、○戸崎虎雄、浦谷熊吉、目黒甚七、大島正徳、齋藤木、今村完道、木村泰賢来訪す、○内堀維文、東亜協会々員となる、○午后、書状を大谷嘉兵衛、真金近松及び大江文城に送る、○穂積八東より来状、○夜、大西博士追悼会に富士見軒に赴く、坪内雄藏、浮田和民、島村瀧太郎、高田耕安等と会見す、○井上俊雄より来状、

七日、午前、講義に大学に赴く、○医科大学に赴く、○午后、深作

一文来る、乃ち之に原稿二冊を付与す、○立花俊道、東亜協会々員となる、○哲学辞書の原稿を草す、○濱田道羊来訪す、有故不遇、○大江文城及び実業之日本社等より来状、○夜、哲学辞書の原稿を草す、○此日、大掃除をなす、

八日、午前、哲学辞書の原稿を草し、之を同文館に送る、○管子法々篇を読む、○齋藤木より来状、○浦谷熊吉来談す、○「教育勅語に就いて」神戸又新日報に出づ、○午后、志水代次郎来訪す、○博文館より「美術上の釈迦」を送来る、○夜、穂積八束の招燕に赴く、○弘道館及び実業之日本社より来状、

九日、午前、学習院に赴く、○午后、帝国大学に赴く、○三上参次、田中義成を史料編纂所に訪ふ、○枝元長夫及び安達某より来状、○文部省より辞令書来る、云く、明治四十三年十二月開催師範学校修身科教員講習会講師を嘱託す、○夜、大江文城より来状、○書状を齋藤清太郎に送る、○井上成美より絵葉書来る、○校正を弘道館に送る、○深作安文より原稿を送来る、○管子を読む、〔頁下部に「楠緒子女史逝く」の新聞記事切抜貼付〕

十日、午前、医科大学に赴く、○管子を読む、○大江文城より「支那哲学」原稿を送来る、○「日本言葉の会」より来状、○午后、講義に大学に赴く、○原稿を深作安文に送る、○深作安文の原稿を訂正す、○夜、引続き深作安文の原稿を訂正す、○James, The Varieties of religious experienceを読む、○此日、社会主義公判開始決定書（九日）各新聞に発表せらる、

十一日、午前、天台大師別伝及びJames, The Varieties of religious

experienceを読む、○齋藤儀八より海老壱囊を送来る、○実業之日本社の瀧澤素水来訪す、○午后、浦谷熊吉、三並良来訪す、○引続きJamesを読む、○松村茂助より来状、○夜、弘道館より校正来る、○校正を弘道館に送る、○増田義一より書状と「十大徳教家伝」を送来る、○引続きJamesを読む、○書状を松村茂助及び帝国学士院に送る、○此日、修身科検定試験を行ふ、○文部省より試験答案を送来る、

十二日、午前、森良三郎来る、○学習院女学部記念式に清子と共に赴く、牧野伸顕、徳川達孝、高崎正風、井上頼国等と会见す、○午后、四時半頃帰宅、○不在中花田仲之助、手塚光貴来訪す、○秋山悟庵及び米林健造より来状、○上杉慎吉より「婦人問題」を送来る、○夜、James, The Varieties of religious Experienceを読む、○文学者より使者来る、乃ち之に契約書を付与す、○小石川郵便局より来状、

十三日、午前、齋藤木、武内紫明、田中義能、蔭山義三郎、濱田道羊、竹内松治、天生目一治、竹原久之助、中島万次郎、古城貞吉、伊藤理基及び小中村某来訪す、○宮内省より観菊会の招待状来る、○午后、丁西倫理会に赴き、「古風の宗教と現代の道德」を演述す、○夜、丁西倫理会の宴会に富士見軒に赴く、

十四日、午前、講義に大学に赴く、○医科大学に赴く、○午后、成瀬仁蔵、浦谷熊吉、安田勝蔵、楠山正雄来訪す、○杉山直喜来る、乃ち談話を速記せしむ、○三宅直温、東亜協会々員となる、○小澤錦十郎、今泉丈助より来状、○夜、堀田相爾来訪す、○此日、

丙午出版社より「孔子伝」を送来る、○文科大学より来状、

十五日、午前、隆文館より「益軒全集」巻之一を送来る、○大塚楠緒子の訃報来る、○国書刊行会より「事実文編」及び「近世文芸叢書」を送来る、○James, The Varieties of Religious Experience及び管子を読む、○博文館より原稿料を送来る、○安田勝蔵より「山鹿素行先生」を送来る、○此頃「国民教育の独立」教育学术界に出づ、○午后、枝元長夫来る、乃ち談話を筆記せしむ、○「山鹿素行先生」の訂正を安田勝蔵に送る、○小澤錦十郎より梨壺箱を送来る、○管子を読む、○検定試験の答案を読む、○杉山直喜より速記を送来る、○夜、検定試験の答案を読む、○博文館及び學術講話会事務所より来状、○書状を浦谷熊吉に、研究会の案内として葉書五枚を送る、

十六日、午前、学習院に赴く、○午后、教授会に大学に赴く、○本多辰次郎来訪す、○勝田吉次郎より書状と蜜柑箱とを送来る、○東海林辰三郎より書状と印刷物とを送来る、○夜、葛岡敬雄、櫻井一義来訪す、○国語調査会より書類を送来る、○研究会の案内状二通を発送す、○此日、「現代青年に対する要求」青年之友に出づ、

十七日、午前、金尾文淵堂より「基督教聖典」及び「イエスキリスト」を送来る、○浦谷熊吉来訪す、○医科大学に赴く、十月初旬以来の歯痛始めて快癒す、○管子を読む、○午后、講義に大学に赴く、○小山正雄より来状、○千葉秀胤、櫻井一義の紹介状を携へて来る、乃ち談話を筆記せしむ、○国語調査会より書類来る、○萩野

由之の男懐之の訃報来る、○夜、杉山の速記を訂正す、○塩谷正吉、伊原敬之助、東亜協会々員となる、

十八日、午前、速記を訂正す、○浦谷熊吉、秋山悟庵、龍山義亮来訪す、○澤柳政太郎より「孝道」二冊を送来る、○研究会の為に案内状拾通を送る、○午后、高山昇来訪す、○国語調査会に文部省に赴く、○吉田不二来訪す、○府税、市税、特別税八拾四錢五厘を区役所に納む、○夜、速記を訂正す、○原稿を秋山悟庵に送る、○文部省図書課より書類来る、○同文館より来状、

十九日、午前、岡野義三郎より絵葉書来る、○浦谷熊吉来る、乃ち之に原稿を付与す、○検定試験の答案を読む、○試験の成績を文部省に送る、○午后、東亜協会研究会に山上御殿に赴く、来会者、約四十名、講演者は奥田義人、穂積陳重、全重遠、有賀長雄、元良勇次郎、吉田熊次、三輪田元道等、○麻生正蔵、土屋幸正、東亜協会々員となる、○縫子、大塚楠緒子の葬式に雑司ヶ谷に赴く、○東京音楽学校より招待状来る、○不在中に東敬治、鷹野勇雄来訪す、○吉田雪子来る、○夜、「仏教家の覚醒を促す」中外日報に出づ、○伊藤吉之助来訪す、○藤井健治郎より「師範修身」の原稿を受取る、

二十日、午前、羽山好作、池田直、千葉亀雄、野沢妙田、来訪す、○野田禮雄より「菓子」を送来る、○午后、東亜協会大講演会を法科大学三十二番地に開く、来会者約五百余名、○「現代思想の变化に対する覚悟」を講演会に演述す、○夜、東亜協会評議員会を山上御殿に開く、○東海林辰三郎より来状、○「仏教家の覚醒

を促す」中外日報に出づ、○此日、荻野懐之の葬式に英爾をして
会せしむ、○トルストイ逝く、享年八十二、

廿一日、午前、講義に大学に赴く、○午后、浦谷熊吉、岩崎歌郎、
阪崎坦、鷹野勇雄、陰山義三郎、釈義堂、深作安文来訪す、○深
作の原稿を訂正す、○訂正原稿を深作安文に付与す、○桑原隲蔵、
東亜協会々員となる、○夜、松村茂助及び教科書会より来状、○
書状を浦谷熊吉に送る、

廿二日、午前、文部省に赴き、修身科本試験口述試験を行ふ、合格
者二十一名、不合格者二名、○夜、七時頃帰宅、○不在中池田直
来訪す、○文部省及び手塚光貴より来状、○此日、千代田書房よ
り「古今名家文鈔」及び「王陽明伝習録」を送来る、○国学院大
学より「日本書紀伝」第四を送来る、

廿三日、新嘗祭、午前、弘道館より、「女大学の研究」二冊を送来
る、○源良英、「憤怒及復讐の心理的研究」を携来る、○浦谷熊
吉、宮崎幸麿、竹原久之助来訪す、○文学博士三浦周行、東亜協
会々員となる、○縫子は井上成美宅に、清子は美術館展覧会に赴
く、○午后、千葉龜雄来る、乃ち談話を筆記せしむ、○夜、天台
大師別伝を読む、○東明館に赴く、

廿四日、午前、天台宗中学に赴き、「智者大師と現代の仏教」を演
述す、○医科大学に赴く、○清水金右衛門来訪す、○中外日報社
より為換と書状を送来る、○午后、大日本統藏経二套を受取る、
○所得税四二、三四、府税市税、区費八、○二を区役所に納む、○
水道料一〇、一七を区役所に納む、○富山房より「孝道」二冊を

送来る、○講義に大学に赴く、○石橋臥波、大学に来訪す、○
葉書を勝田吉次郎、小澤錦十郎、多田鍊雄に送る、○夜、書状
をDr.Heumann Hoffmannに送る、○石橋臥波、枝元長夫、及び
The Moral Education Leagueより来状、○松村茂助より来状、
○「師範修身」一百部の奥附を金港堂に付与す、

廿五日、午前、「東亜の光」口絵を日清印刷会社に送る、○浦谷熊
吉来談す、○「現代思想の变化」朝野新聞に出づ、○午后、「教
界春秋」を活版所に送る、○縫子、吉田宅に赴く、○運動に出づ、
○夜、龍山義亮、安達鎌一より来状、○原稿を訂正して之を千葉
龜雄に送る、○「支那仙人列伝」の序を作る、

廿六日、午前、大島正徳より来状、○「支那仙人列伝」の序を東海
林辰三郎に、「歴年体講堂訓話」の序を羽山好作に送る、○医科
大学に赴く、○不在中森良三郎来る、○枝元長夫の筆記を訂正す、
○午后、筆記を訂正して之を枝元長夫に送る、○揮毫を試む、○
峰間信吉来訪す、○文部省より教科書類来る、○夜、訂正筆記を
陰山義三郎に送る、○深作安文の原稿を訂正す、

廿七日、午前、西崎憲英より来状、○中島泰蔵、浦永茂助、浦谷熊吉、
森良三郎、高橋仁、武内紫明、濱田敷美夫、手塚光貴、秋山悟庵、
清水谷善照、安田勝蔵、勝水淳行、加藤玄智、齋藤木来訪す、○
午后、哲学会に大学に赴く、藤井健治郎、元良勇次郎講演をなす、
○夜、山上御殿に会食す、食後Heumann Hoffmannの講演あり、
○不在中Joseph Cotte来訪す、○大洲予章会より写真を送来る、
○此日、清子、雪子と共に音楽学校に赴く、

廿八日、午前、村越銃之輔より来状、○講義に大学に赴く、○医科
大学に赴く、○午后、博文館の速記者来る、乃ち談話を速記せし
む、○東海林辰三郎、峰間信吉より来状、○安田勝蔵、阪崎坦来
訪す、○深作安文の原稿を訂正す、○深作安文妻来訪す、○夜、
安田勝蔵復た来る、乃ち談話を筆記せしむ、○小松原文相、文科
大学、蛭川龍夫、堀田相爾及び京華高等女学校より来状、○深作
安文の原稿を訂正す、

廿九日、午前、秋山悟庵より来状、○縫子、三越に赴く、○揮毫、
○午后、揮毫、○天台宗中学生、御礼の為に来る、○元良夫人、
大平得三妻と共に来訪す、乃ち之に書二幅を贈る、○運動に出づ、
○不在中大塚保治来訪す、○漢籍国字解全書を送来る、○夜、堀
田相爾来訪す、
三十日、午前、学習院に赴く、○不在中本多辰次郎来訪す、○午后、
大日本青年中学会より使者来る、○英爾を三井銀行に遣はす、○
深作安文の原稿を訂正す、○浦谷熊吉来談す、○「東亜の光」(五
の十二)成る、発行部数三三六〇、○夜、野村寅次来る、乃ち談
話を速記せしむ、○管子を読む、○深作安文の原稿を訂正す、

十二月

一日、午前、管子を読む、○文部省普通学務局より来状、○医科大
学に赴く、○午后、講義に大学に赴く、○深作安文の原稿を訂正
す、○池田直来る、乃ち之に書一幅を付与す、○夜、深作安文及
び藤井健治郎の原稿を訂正す、○文科大学より来状、
二日、午前、本多辰次郎、浦谷熊吉来訪す、○「女子に必要なる特

種の修養」婦人くらぶに出づ、○午后、池田直来る、乃ち之に書
二幅を付与す、○藤井健治郎の原稿を訂正す、○深作安文、葛岡
敬雄来訪す、○石橋臥波より来状、○夜、藤井健治郎の原稿を訂
正す、○松村茂助、穂積八束、及び漢文学会より来状、○浅間山
大鳴動二回、○此日、大日本雄弁学会より速記を送来る、

三日、午前、書状を小松原文相に送る、○医科大学に赴く、○不在
中森良三郎来る、○吉田雪子来談す、○午后、書状を穂積八束に
送る、○岩橋遵成来訪す、○夜、中山宗太郎来る、乃ち之をして
談話を速記せしむ、○「社会の変遷と宗教家の態度」中外日報に
出づ、「頁下部に「メリーエヂー教長逝く」の新聞記事切抜貼付」

四日、午前、藤井健治郎、伊藤吉之助、松浦一、清水金右衛門、安
野助多郎、浦谷熊吉来訪す、○村上静人来る、乃ち談話を筆記せ
しむ、○弘道館の使者来る、○午后、婦人通俗学術講話会に渡辺
女学校に赴き、「女子に特有なる修養法」を演述す、○夜、日本
学会に赴く、田中義成及び谷津直秀の講演あり、○不在中片山英
儀来訪す、○此日、片桐佐太郎より絵葉書来る、○深作安文より
来状、○西有穆山逝く、享年九十、

五日、午前、講義に大学に赴く、○医科大学に赴く、○午后、阪崎
坦来訪す、有故不遇、○午后、師範教員講習会に文部省に赴く、
○江尻庸一郎、真船民伊等と文部省に会见す、○不在中岩田僊太
郎来訪す、○夜、弘道館及び帝国学士院より来状、○「釈尊物語」
の序を草す、○此日、「仏教所感」禅道に出で、「社会の変遷と宗
教家の態度」中外日報に出づ、○藤樹邸址碑除幕式を行ふ、

六日、午前、浦谷熊吉、野中天潮、瀧澤素水来訪す、○午后、講習会に文部省に赴く、○柿山清、誉田豊吉、塩川佃、中島次郎吉、里村勝次郎等と文部省に会見す、○夜、小松原文相の招燕に永田町官邸に赴く、○葛岡敬雄より来状、○此日、文学博士重野安繹逝く、享年八十四、○羽室蒼治、東亜協会々員となる、

七日、午前、学習院に赴く、○午后、哲学字彙の会に大学に赴く、○丙午出版社より「原人論講話」を送来る、○大洲中学校より絵葉書を送来る、○夜、葛岡敬雄来訪す、○実業之日本社より使者来る、○此日、「女子に特有なる修養」中央新聞に、「青年の覚悟」青年団に、「細井平洲」美術新聞に出づ、

八日、午前、医科大学に赴く、齒痛殆ど全く快癒す、○浦谷熊吉来談す、○管子を読む、○「東亜協会第八回講演」山陽新報に出づ、○午后、講義に大学に赴く、○「勅語衍義」一千部の奥附を成美堂に付与す、○乃木希典より来状、○重野安繹の訃報来る、○深作安文の原稿を訂正す、○夜、「山鹿素行に就いて」教育界に出づ、○佃速記所より速記を送来る、○三澤糾より「時代と教育」を送来る、○政法大学の黒澤逸郎来訪す、○速記を訂正す、○大日本雄弁会の使者来る、

九日、午前、三澤糾より来状、○浦谷熊吉及び前川文栄閣手代来談す、○縫子、姉崎宅に赴く、○午后、講義に講習会に赴く、○矢野利喜藏、大東重善、萱場今朝治、片山英儀等と会見す、○真船民伊、柴田砂次郎、岡田五兎、東亜協会々員となる、○佃速記所より速記を送来る、○速記を訂正す、○弘道館より来状、

十日、午前、金港堂より速記を送来る、○秋山悟庵より来状、○医科大学に赴く、○浦谷熊吉来訪す、○午后、吉田豊より為換を送来る、○大塚保治より帛紗を送来る、○講習会に赴く、○江尻庸一郎、武井悌四郎、小島政吉、小柳三郎と文部省に会見す、○英爾をして重野安繹の葬式に会せしむ、○雄弁会の速記を訂正す、○夜、速記を訂正す、○此日、古事類苑（宗教部）を送来る、

十一日、午前、若木広良、勝水淳行、武内紫明、浦谷熊吉、秋山悟庵来訪す、○磯江潤より菓子箱壹箇及びビール壺打を送来る、○六盟館より来状、○午后、中島次郎吉、塩川佃、北村重敬、誉田豊吉、金子満壽来訪す、○丁西倫理会に赴く、○夜、「仏陀」の序を作る、○速記を訂正して之を雄弁会に送る、○校正を弘道館に送る、○此日、前川文栄閣より使者来る、○国書刊行会より「黒川真頼全集」第四及び「事実文編」第二を送来る、○信夫恕軒逝く、享年六十七、○三浦安逝く、享年八十二、○杉民治逝く、享年八十三、

十二日、午前、講義に大学に赴く、○午后、Dr. Karl Lamprechtより Rede des antretenden Rectors を送来る、○講習会に文部省に赴く、○不在中深田康算来訪す、○大日本雄弁会より絵葉書来る、○鷹野勇雄来訪す、○大江文城より来状、○中島徳藏より速記を送来る、○伊藤允美、東亜協会々員となる、○太田中学校より会報二冊を送来る、○葛岡敬雄より来状、○夜、「和魂の跡」の序を秋山悟庵に送る、○松村茂助より来状、○速記を訂正す、十三日、午前、「訂正速記」を鷹野勇雄に博文館に送る、○浦谷熊吉、

高木武、森良三郎来訪す、○山田孝雄、高橋健白、上杉慎吉外二十二人、東亜協会々員となる、○午后、原稿を浦谷熊吉に送る、○講習会に文部省に赴き、講義を結了す、〔頁下部に「^{腎臓}頭腦[▲]の改造[▲]」井上博士の講演に拠る〕の新聞記事切抜貼付〕○浅尾重敏、大久保介壽、小山光彦等に文部省に会见す、○三浦安の訃報至る、○樋口源吉より来状、○齋藤省三より小魚壺包を送来る、○夜、彙報を浦谷熊吉に送る、○速記を訂正す、

十四日、午前、金港堂及び精神病談話会より来状、○速記を訂正して之を金港堂に付与す、○学習院に赴く、○午后、大学の教授会に赴く、○不在中齋藤庸一郎来訪す、○「人生心理学」の序文を草す、○星菊太来訪す、○「東亜の光」口絵の解題を印刷所に送る、○夜、序文を勝水淳行に送る、○文部省及び乙竹岩造より来状、○萱場今朝治来訪す、○葛岡敬雄より東亜協会入会者を通知し来る、○里村勝次郎、藤山豊、江尻庸一郎、横尾繁六等七名、東亜協会々員となる、

十五日、午前、乙竹岩造より「不良児教育法」を送来る、○仏陀の序の校正来る、○校正を日清印刷会社に送る、○縫子、成美宅に赴く、○里村勝次郎来訪す、○管子を読む、○医科大学に赴く、○清水満之助より「砂糖」壺樽を送来る、○午后、講義に大学に赴く、○「陽明哲学」百五拾部及び「倫理と宗教」百部の奥附を富山房に付与す、○「教界春秋」を草す、○羽田貞義より来状、○夜、「教界春秋」を草す、

十六日、午前、英爾、横浜に赴く、○多田鏡雄より来状、○浦谷熊

吉来談す、○「教界春秋」を草したりて之を印刷所に送る、○島根県師範学校教諭藤波国途、東亜協会々員となる、○深作安文の原稿を訂正す、○午后、文科学生藤田某、海老名弾正の書状を携来る、○小林孤浪来る、乃ち談話を筆記せしむ、○深作安文の原稿を訂正す、○英爾をして三浦安の葬式に青山に会せしむ、○羽田貞義より「実践倫理学講義」を送来る、○書状を浦谷熊吉に送る、○夜、哲学会に山上御殿に赴く、○岡不崩より「志の布草」を、帝国学士院より Ueber die Aetiologie der Tsutsugamushi von Prof. M. Ogata を送来る、

十七日、午前、文明協会より「人性論」と「租税論」とを送来る、○三好愛吉来訪す、○医科大学に赴く、○深作安文の原稿を訂正す、○午后、英爾を学習院に遣はす、○原平吉、「渡辺崋山遺墨帖」を携へて来訪す、○引続き深作安文の原稿を訂正す、○岡野義三郎来訪す、○宮内省より来状、○夜、管子を読む、○此日、「平時の戦鬪者」中外日報に出づ、○深田藤三郎より甲斐産葡萄酒壺打の券を送来る、

十八日、午前、齋藤木、浦谷熊吉、小中村清名来訪す、○法政大学より来状、○管子を読む、○清子、春枝、高子、銀座に赴く、○中島徳蔵の使者来る、○吉田修夫より「観音の信仰」を送来る、○午后、丁酉倫理会の速記を訂正す、○森良三郎来談す、○正勝益之進、英爾と共に上野博物館に赴く、○野村寅次、速記を携来る、○夜、多田房之輔、深作淑子より来状、○速記を訂正す、○堀謙徳、深作安文より来状、

十九日、午前、講義に大学に赴く、○英爾を文部省に遣はす、○宮内省に赴き、賜物を拝領す、○鹿田静七より「關里文献考」と「呻吟語」を送来る、○中島徳藏の使者来る、○午后、英爾を日本銀行に遣はす、○野島論来る、乃ち談話を筆記せしむ、○小谷重、木山熊次郎来訪す、○富山房より印税を送来る、○速記を訂正す、○隆文館より鴨二羽を、三省堂よりビール壺打を送来る、○久世庸夫、上野亀喜より来状、○夜、「現代思想の變化に對する覚悟」中外日報に出づ、○訂正速記を中島徳藏に送る、○訂正速記を野村寅次に送る、○吉田夫妻来談す、○此日、成美堂より漬物壺樽を送来る、

二十日、午前、医科大学に赴く、○不在中森良三郎来る、○管子を読む、○午后、武内紫明、加藤玄智、深作安文、葛岡敬雄、辻本卯藏来訪す、○佐々木清之丞、広島秀太郎、川面松衛、東亜協會々員となる、○英爾を鴻池銀行に遣はす、○「平時の戦闘者」中外日報に出づ、○「倫理研究」成る、○同文館より校正来る、○夜、哲学上の論文を起草す、

廿一日、午前、学習院女学部へ赴く、○同文館より文房具を、育成会より鶏卵箱壺筒を送来る、○午后、「学生宝鑑」二百部の奥附を大倉書店に付与す、○弘道館より印税と「實際主義」とを送来る、○浦谷熊吉来談す、○黒川真道より菓子箱を送来る、○夜、心理学会に山上御殿に赴く、○帝国学士院及び里村勝次郎より来状、○此日、学習院女学部より使者来る、○「現代思想の變化に對する覚悟」中外日報に出づ、

廿二日、午前、医科大学に赴く、○論文を草す、○村松喜太郎より玉子箱、伊藤六三より状囊壺箱、博文館よりビール半打、文学社よりビスケット壺缶を送来る、○午后、引続き論文を草す、○佐々木信綱より玉子箱を送来る、○大日本統藏經二套を受取る、○婦人画報社より券を送来る、○本多辰次郎より「帝王系統図」を送来る、○夜、学友会より来状、○年始状發送の準備をなす、

廿三日、午前、論文を草す、○浦谷熊吉及び文学社手代来る、○英爾を大学に遣はす、○「任侠道は武士道の変形」日本及日本人に出づ、○午后、報知新聞の記者井上某来訪す、○マニユフハクチューラス生命保險会社員某来る、乃ち之に保険料四〇四、〇〇を付与す、○博品館に赴き、小筆筒を買求む、○清水金右衛門より「釈尊物語」一冊と雉子壺羽を送来る、○夜、論文を草す、○河野純孝より来状、○同文館より校正来る、○校正を同文館に送る、○此日、帝國議會開会、

廿四日、午前、正則予備校に芝公園に赴く、○不在中富岡直方来訪す、○「千里眼に關する問題」報知新聞に出づ、○午后、「東亜の光」(六の一)成る、○英爾を東海銀行に遣はす、○今福忍より菓子箱を送来る、○岩田僊太郎より真綿を送来る、○大嶋健一より「日韓上古史の裏面」三冊を送来る、○論文を草す、○夜、蜷川龍夫、中島万次郎より来状、○文部大臣秘書官黒澤次久、使者を遣はし、書状を送来る、○論文を草す、

廿五日、午前、西田敬止、富岡直方、大澤豊子、桑原隲藏、白田蒲城来訪す、○前川文栄閣より砂糖壺箱を送来る、○松山直藏より

来状、○博文館より為換を送来る、○午后、浦谷熊吉来談す、○原田信造来る、乃ち談話を筆記せしむ、○目黒甚七より海苔を送来る、○深田藤三郎、菓子箱を携へて来訪す、○夜、清子、宣光及び春枝を拉して多賀羅亭に赴き、尋いで銀座に遊ぶ、○博文館及び法政大学より来状、○此日、阿部維巖及び森良三郎より各蜜柑壺箱を送来る、

廿六日、午前、六盟館よりハンケチを送来る、○有馬祐政、大島正徳来訪す、○英爾を遣はし、菓子料を石原久に、菓子箱を眞浄寺に送る、○富山房よりビール壺打を送来る、○金港堂より報告書を送来る、○午后、姉崎正治、補永茂助、遠藤夏子及び羅寄安来訪す、○大倉書店よりビール壺箱、林平次郎より海苔を送来る、○長谷川誠也より絵葉書来る、○葛岡敬雄の使者に金百円を付与す、○夜、法政大学に赴き、「教育者の修養と儒教」を講演す、○阿部維巖、竹内定助より来状、○此日、英爾を遣はし、ビール壺打を齋藤基次郎に送る、○井上健児より鯛を送来る、

廿七日、午前、浦谷熊吉、生駒万治来訪す、○深作安文及び原秀四郎より各々菓子箱壺筒を送来る、○吉田熊次より葱及び奈良漬を送る、○舞玉と菓子姉崎宅と成美宅に送る、○浅草苔を井上道喜及び富田春山に送る、○午后、論文を草す、○姉崎袖子及び福田寧雄来訪す、○金港堂より印税を送来る、○文部省より書類来る、○富田順吉より菓子、成美より鏡、貞金近松より砂糖壺箱、岩橋遵成より蜜柑、浅倉屋より菓子箱を送来る、○学習院より職員名簿を送来る、○大日本青年中学会より御礼を送来る、○夜、

論文を大島正徳に送る、○同文館より「日本教育文庫」(孝義篇下)を送来る、

廿八日、午前、報告書を帝国学士院に送る、○武内定助より来状、○岩橋遵成来訪す、○小林道彦、東亜協会々員となる、○英爾を遣はし、真綿を佐々木信綱に、ビスキット入の缶を尾上八郎に送る、○「漢籍国字解全書」(左伝中)を送来る、○餅を搗かしむ、○鹿田静七に八円式拾銭の為換を送らしむ、○午后、小藤文次郎の為に金参円を佐藤伝蔵に送る、○暁星学校より来状、○午后、富岡直方来訪す、乃ち談話を筆記せしむ、○縫子、津野慶太郎宅に赴く、○清子、春枝と共に三越に赴く、○文学社の「実業修身」を訂正す、○深作安文の原稿を訂正す、○林政穂より来状、○海苔を富田順吉及び齋藤儀八に送る、○書籍二冊と雑誌壺冊を黒田侯爵に送る、○齋藤基次郎より雉子及び菓子を送来る、○夜、在ライプチヒ市桑田芳蔵より来状、○深作安文の原稿を訂正す、○年賀状数百通を発送す、○文学社々員川西房治郎来る、乃ち之に原稿を付与す、○此日、「孔子に関する談話速記」中学世界に出づ、廿九日、午前、深作安文の原稿を訂正す、○小池橘太郎より山葵を送来る、○「虚偽の進歩と真正の発展」婦人画報に出づ、○午后、片山正雄来訪す、○深作安文の原稿を訂正す、○齋藤精輔、日本百科大辞典第四冊を携来る、○村岡素一郎より「津門」を送来る、○法貴慶次郎より菓子箱を送来る、○縫子、伊澤修二及び遠藤隆吉宅に赴く、○夜、深作安文の原稿を訂正す、○管子心術篇を読む、三十日、午前、深作安文の原稿を訂正す、○管子心術篇を読む、○

浦谷熊吉、井上円了来訪す、○高山昇、御礼の為に來る、○英爾を三菱銀行に遣はす、○鈴木大拙より鴨壺籠を送來る、○帝國大學圖書館より來狀、○京都帝國大學より「清國行政法」二冊を送來る、○「孔子とソクラテス」雄弁に出づ、○午后、森良三郎、深作安文來訪す、○原稿を深作安文に付与す、○管子白心篇を読む、○星野恒より「談経」を返來る、○文明協會より「群衆心理」と「恐慌論」を送來る、○伊澤修二よりビール半打と漆塗箱とを送來る、○縫子、清子春枝と共に博品館に赴く、○夜、年賀状を認む、

三十一日、午前、管子水地篇を読む、○法政大学の黒沢逸郎、御礼の為に來る、○富尾木知佳より雉子二羽を送來る、○龜谷聖馨より書狀、菓子及び「釈迦文仏」を送來る、○広池千九郎來訪す、○「死宗教と活宗教」東洋時論に出づ、○午后、読売新聞社よりビール壺打を送來る、○深作安文來訪す、乃ち之に原稿を付与す、○「古風の宗教と現代の道德」丁酉倫理會講演集に出づ、○「仏教々育所感」宗教界に出づ、○秋月胤繼より年賀状來る、○夜、年賀状を認む、○「時代思想と国民教育」教育界に出づ、○茲に歳末に際し、過去一年間の事を瞥見するに、購入書籍五拾九部、○寄送書類總計百〇九部(貳百拾四冊)○七月以後の教科書檢印数は「商業修身」一百、「新編倫理」六〇、「師範修身」五百、「女子修身」六百、之を六月以前の分と合計すれば、五万四千貳百四拾部(以上金港堂)○六月以後文學社檢印数は三百八拾、之を六月以前の分と合計すれば、壹万一千一百部、○兩者を合計すれば、

ば、六万五千參百四拾部、○其他六月以後の檢印は、「教育と修養」一千五百、「勅語衍義」一千、「學生寶鑑」貳百、「勅語教本」三百、「古学哲学」一百、「朱子哲学」五拾、「陽明哲学」二百、「倫理と宗教」一百、○一年間總發行部數七万〇八百貳拾貳部、○「東亜の光」十二月發行部數參千參百五拾部、

年末到來物如左

砂糖壺樽	清水滴之助	ビール壺打	読売新聞社
砂糖壺樽	堀田相爾	玉子箱	佐々木信綱
西洋菓子	姉崎	菓子箱	法貴慶次郎
雉子二羽	富尾木知佳	鏡	成美
兎	村末	鴨二羽	鈴木大拙
菓子	龜谷聖馨	ビール半打漆塗箱	伊沢修二
山葵	小池橋太郎	海苔	目黒甚七
漬物壺樽	成美堂	蜜柑壺箱	阿部維巖
蜜柑壺箱	森良三郎	ビール壺打	大倉壺打
海苔	林平次郎	ビール壺打	富山房
蜜柑	岩橋遵成	菓子箱	原秀四郎
菓子箱	深作安文	塩鯛	井上健児
葱及奈良漬	吉田熊次	砂糖壺箱	貞金近松
菓子箱	浅倉屋	ビスケット	文学社
菓子	順吉	雉子及菓子	齋藤基次郎
漆塗箱	広池千九郎	菓子箱	今福忍
真綿	岩田懔太郎	文房具	同文館

雉子壺羽	清水金右衛門	商品券	弘道館
商品券	婦人画報社	状囊	伊藤六三
ビール半打	博文館	菓子箱	黒川真道
菓子箱	育成会	菓子箱	笹川
ビール壺打	三省堂	鴨二羽	隆文館
ブドウ酒壺打	深田藤三郎	小魚壺包	齋藤省三
菓子及ビール	磯江潤	ハンケチ二打	六盟館
鯉漁節	村田五郎	菓子箱	磯辺弥一郎
漆塗箱	遠藤隆吉	蜜柑箱	勝田吉次郎
菓子箱	村松	砂糖	文栄閣

(むらかみ こずえ 東京大学文書館)

(たにもと むねお 大東文化歴史資料館)